

# 国際理解 第 9 号

1 9 9 3



岡山県国際理解教育研究会

目次

ご挨拶 ..... 国際理解教育研究会 会長 武 泰 稔 1

世界の日本人学校から（現派遣教師のレポート）

1.	ロンドン日本人学校の英会話 .....	森 本 道 明 5
2.	ベルギーにおける言語環境 .....	小 野 大 7
3.	我が愛する第二の故郷 .....	赤 松 康 弘 10
4.	補習授業校が抱える問題 .....	森 本 清 二 13
5.	近くて遠い国々台湾 .....	後 藤 晋 16
6.	世界最大の群島国家インドネシア .....	渡 辺 英 信 18
7.	バン格拉デシュの子供たち .....	服 部 誠 博 23
8.	現地理解教育を通してドイツの農業を探る .....	野 上 雅 博 27
9.	日本と日本人の真の国際性涵養のために「地の塩」を育てることを .....	薄 茂 樹 32
世界の国々に学ぶ（帰国教師のレポート）		
1.	「ちがひ」を理解する .....	成 石 壽 之 39
2.	マニラ日本人学校における日本語指導 .....	西 崎 正 明 45

3.	正しい日本語の環境づくり	竹本健司	50
4.	コスタリカの選挙	山田羊平	57
	子供のための世界の国々		
1.	オランウータンと豆の木	尾崎達	63
2.	南米「ベネズエラ」の料理・食べ物について	三村秀樹	68
3.	フィリピンの小学生	森英志	75
	「国際理解教育」再考	三宅正勝	82
	中国の歴史をどう見るか（日本と中国の歴史教科書を比較して）第3部	黒田忠男	88
	「子供のための世界の国々」を使った国際理解教育の実践『昭南島と呼ばれていたシンガポール』	太田直宏	96
	このころ思うこと	垣見憲治	100
	岡山県下の国際交流団体	阿比留博	105
	平成四年度事業報告		117
	海外派遣者名簿（帰国者）		118
	現派遣者名簿		121
	平成4年度役員名簿		122
	本会会則		123



一 挨拶

会長 武たけ 泰やす 稔とし

学校では、国際化への対応ということが強調され、外国では「コクサイカ」という言葉が外来語になりつつあると聞きます。このような時代にあつて、わたしたちの冊子『国際理解』第九号を発刊することになりました。昨年度は『子供のための世界の国ぐに』を発行していますから、事実上第十号と考えてもよいと思います。会員のご努力と関係団体のご支援の賜と心から感謝申し上げます。

さて、世界の情勢に目を向けますと、ソビエト連邦が崩壊し、世界の冷戦体制は改善されたものの、世界の各地で民族対立や宗教上の対立が激化してきました。日米のパートナーシップも多くの課題をもっているように見えます。各地の紛争や難民等へのわが国の国際貢献の在り方など、国際的な課題は山積しています。

新しい教育過程が小・中学校とも全面实施になり、国際化への対応が強調されています。これまで、国際化といえど、外国人を招いて歌やゲームのような楽しいイベントを行ってそれで終わりということが多かったのではないのでしょうか。学校では、やはり毎時間の授業をどのように展開するかが最も大切であると考えます。各教科等の授業で、小学校低中学年からわが国の文化をしっかりと認識させ、外国の存在に気づかせること、小学校高学年から中学校においては、わが国の文化や歴史についての認識を深め、世界の民族や文化を深く理解し、相互に認め合うことがますます大切になってきたと考えます。

また、モノ・カネの国際化からヒトの交流の時代に入ったと言われています。わが国の労働力不足を補うために多くの外国人労働者が来日しています。外国人留学生も増加の一途をたどり、卒業後も日本に就職するケースも多いようです。一方、戦前からの在日外国人及びその二・三世も大勢います。このような人々とのように相互理解を深めていくか。また、その子女の教育をわが国の学校でどのように進めるか。今後の大変大きな課題といえます。

本研究会が発足したのは昭和五十六年ですから、もう十数年が経過したわけです。会員は百三十名を超えました。昨年度は、全国国際理解教育研究大会を、就実女子大学を会場に全国から七百名を超える参加者を迎えて、盛大に開催することができました。また、福武哲彦賞を授賞するという名誉を受けました。このように、わたしたちの研究会がようやく社会に認知され、期待をもたれるような存在になりつつあることを、実感するわけでありませう。今後の本研究会の責務は大きいといえます。

今回の本誌発行にも、例年のとおり福武教育振興財団の助成をしていただき感謝申し上げます。また、ご協賛いただいた各社、玉稿をお寄せいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

# 世界の日本人学校から

## 現派遣教師のレポート

1. ロンドン日本人学校の英会話.....森本 道明
2. ベルギーにおける言語環境.....小野 大
3. 我が愛する第二の故郷.....赤松 康弘
4. 補習授業校が抱える問題.....森本 清二
5. 近くて遠い国～台湾～.....後藤 晋
6. 世界最大の群島国家インドネシア.....渡辺 英信  
服部 誠
7. バングラデシュの子供たち.....野上 雅博
8. 現地理解教育を通してドイツの農業を探る.....薄 茂樹
9. 日本と日本人の真の国際性涵養のために  
「地の塩」を育てることを.....成石 壽之

## ロンドン日本人学校の英会話

ロンドン日本人学校

森 本 道 明

ロンドン日本人学校は、小中あわせて、約千人の児童生徒がいるが、彼らには、英会話の時間が設定されている。

小一と小二は週二時間、小三〜中三は週三時間の割り当てがある。例えば、小学部四年だと、能力別にAからIクラスに分けている。児童は、英会話の時間になると、各クラスがバラバラになり、それぞれの英会話の先生の教室へ移動することになる。AからGまでは英人の先生方、HとIクラスは日本人の英語の先生方との学習になる。

さて、Aクラスの教室をのぞいてみよう。人数は九人ですべての児童が三年間程度の現地校経験者でしめられている。学習内容は、プリントの例文を読み、それを基に、生まれてから今までの自分の経験を英作文を作り、みんなの前で発表するというものであった。彼らの発音を聞いてみると、美しく言葉としてつながっている。彼らが現地校経験の日々の生活の中で耳が覚えたものであろう。もちろん私には、彼らの発表の内容がすべてわかるわけではない。

次にCクラスの様子をみてみると、十三人の子供を三グループに分けて、グループごと違った内容を学習していた。現地校では、クラスの中で色々な事に挑戦している子供たちがいて、びっくりすることがあるが、このクラスは、現地校と日本人学校との中間という授業形態であろうか。学習はすべて英語で行われ、グループ内で質問をする子供と答える子供とに分かれて、役割分担があり、英会話が主体の授業であった。ただ、先生の言葉がすべて英語なので、指示がうまく子供たちに伝わらないこともあるらしく、グループ内で日本語で「早くしろよ。」とか「はつきり言えよ。」とか言うこともしばしば。でもクラスによっては、授業中、日本語を使用することを禁止されているクラスもあるとのこと。

Hクラスは、日本から来て間もない子供（半年ぐらい）がほとんど。彼らは、英語の力不足から、先生も日本人。指示や説明も日本語で学習が進められている。テープを聞いて、そのことをプリントに書き込んでいくことが主な学習内容になっていた。もちろん単語を知らなければ言葉も書き込めないなので、単語を書く練習があり、日本の漢字テスト同様に、ライティングの小テストが毎時間行われるとのことだ。年間二回程度次のクラスに移る機会があり、その

子供の能力に応じて次のクラスに移ることになる。

英語圏にいるということで、親としては、英語の力を子供につけさせたいと思っているようだ。しかし、日本人学校に来ると、彼らの学校生活も家庭生活も日本語となると、生活の中で英語を使用する機会は少なく、英語を使用しなければならない必要性もなくなる。彼らが英語を使用するのは、日本人学校の英会話の時間と家によっては、英人の家庭教師によるプライベートレッスンの時だけということになる。確かにロンドン日本人学校の子供たちは、日本にいるより英語に接する機会が多いとは思いますが、イギリスにいるから、英語ができるようになるとはいかない。残念ながら、ロンドンは日本と全く同じ生活ができるまでに、日本人のための店、料理屋さん、床屋、学校、衛星放送、新聞、病院等々そろっているのである。子供たちの家に帰ってからの楽しみは、日本のマンガ・日本からのビデオテープなどということになる。



Cクラスの授業の様子

## ベルギーにおける言語環境

ブリュッセル日本人学校

小野 大

### ベルギーの概要

昔から『ヨーロッパの交差点』と呼ばれてきたベルギーは、西ヨーロッパの中心に位置しています。(図①)

ドイツのベルリンを除く他の四方国の首都は、ベルギーの首都ブリュッセルから半径三百五十kmの円の中にあります。これは自動車や国際列車なら二時間から四時間、飛行機では一時間前後の距離です。

面積は関東地方ぐらいで、日本の約十二分の一です。西ヨーロッパの中でもルクセンブルク、オランダ、スイスなどとともに小国です。

人口は約一〇〇〇万人で、面積と同じく日本の約十二分の一です。首都ブリュッセルの人口は約一〇〇万人ですが、この人口の約二十五%を外国人が占めていることは驚くべきことでしょう。これは相当数の外国人労働者を受け入れていることや、ブリュッセルにECをはじめNATOなどの国際機関が集中しているためです。



(図①)

### 言語境界線

この小さな国ベルギーには公用語が三種類あります。それはワロン語(フランス語の方言)、フラマン語(オランダ語の方言)、ドイツ語です。これらの言語を話す人達は民族も違います。ワロン人はフランス人などと同じラテン系ですし、フラマン人はドイツ人などと同じゲルマン系です。このうちドイツ語圏は、第一次大戦後に合併された地域で人数も少ないのですが、フラマン語圏とワロン語圏は国土を上下に大きく二分しています。(図②)これが言語

境界線と呼ばれるもので、言語の国境と言えるものです。この境界線（州や町の境界線）を越えると、話される言葉はもちろん広告の文字や新聞、雑誌、さらに地名さえも違います。ただ首都ブリュッセルだけはフラマン語圏の中にありながら、ワロン人が八十五%も住んでいるので、両言語地域という特別な地域になっています。



(図②)

### 言語環境

ベルギーは一つの国に異文化が存在していると言えるでしょう。特にブリュッセルはワロン人やフラマン人だけでなく、他の外国人も多く住んでいるので異文化が混在していると云えます。このブリュッセルの様子を言葉の面から紹介したいと思います。

ブリュッセルでは道路標識や駅前などは二カ国語で表示されています。公的機関からの文書はもちろん、その他のパンフレットも必ず二カ国語で用意されています。食料品なども必ず二カ国語で説明が書かれています。(資料①)

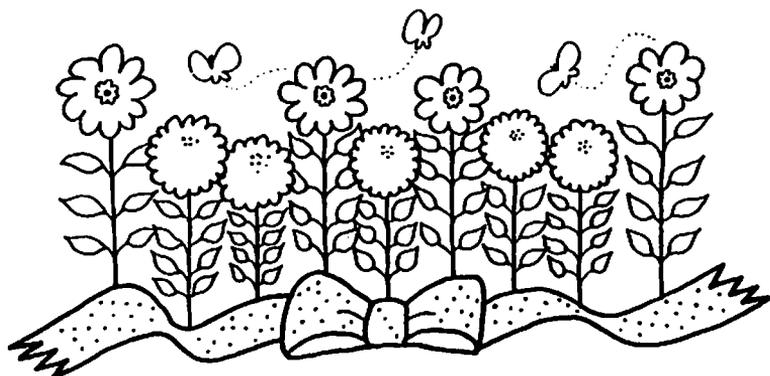
このような言語環境なので、言語教育には特に力を入れています。学校では小学校四年生から第二言語の学習を開始します。さらに中学二年生から第三言語の学習に入ります。幼稚園のときに母国語ではないほうの幼稚園に通わせたりすることもあります。一般にベルギー人の言語に関する興味関心は高く、語学学校もたくさんあり、年齢、性別を問わず多くの人がそこで学んでいます。夜間のコースで真剣に学ぶ学生や勤労者の姿をよく見かけます。このことを裏付けるようなエピソードに次のようなものがあります。それは最近の就職条件について述べたもので、『一ヶ国語だけしかできない人はハンディキャップをもっている

ようなものです。二カ国語では職業を選ぶことができませ  
ん。三方国語で何とか職につける程度で、よい給料の職に  
つくには最低四カ国語は必要です。』というものです。

二時間かそこら走れば異なる言語の国へ行くことができ  
るベルギーのような国では、複数の言語を身につけること  
はとても重要なことです。それによって、異文化の人達と  
のコミュニケーションが進み、市民レベルでのお互いの理  
解が深まることに繋がります。それがこの小さな国を、大  
国の中で存続させることに繋がっているのではないでしょ  
うか。



(資料①)



## 「我が愛する第二の故郷」

北東イングランド補習授業校

(文部省派遣教諭) 校長 赤松 康 弘

この地に赴任し、三度目の正月を迎え、いよいよ三月には帰任する。思い起してみれば方角はおろか言語の全く異なる世界に赴任し、訳も分からないままホテルから本校入学会場へ搬入されたのが、つい昨日のことのように思われる。

しかし、今、帰任を前にして振り返って見れば、様々な出会い、様々な出来事などが貴重な宝石のように想い起こされる。

### 「補習事業校という学校」

日本国内の学校関係者でも、正確に内容を指示できる方は、少ないのではと思われる。私の赴任に際しても、「それは何をやる学校か」「では、教員の一週間はどのようなものか」「その学校の法的根拠は」等々多数の質問を受けたものであった。ここで簡単に説明させていただく。

○補習授業校とは、土曜日のみ開かれる定時制教育機関で

あり、通常、土曜日の午前中三時間のみ開かれる。(一部補習授業校では午前中三時間、午後一時間または、月曜から金曜の四時頃から短時間開校している所も有り、その地域の実状に即し様々なパターンがある)

○指導教科は、一般的に国語のみであるが、最近の傾向として父母の要求もあり算数・数学を一時間取り入れている学校もある。

○月曜から金曜日までの子供達の生活は、現地校に通っているため、朝から夕まで全部英語の世界である。本来的に日本人は大半が帰国を前提としているため、日本語の力を保持、向上しなければならぬ。本校もこのような日本人子女を持つ父母の努力によって創立されたものである。

○日本語の保持、向上と一口に言っても、実に難しい問題が山積しているのである。つまり日本へ帰国した時に、法的に有効な現地生活を証明する書類は、現地校の成績証明書であって、補習校ではない。(日本人学校は全日制であり日本国内学校と全く同一に扱われるに對して、補習校は全く任意団体であって、日本国内に於ては何らか法的効力を持たない。ちなみに全世界に存在する日本人子女の教育を目的とする学校のうち約八十五校が日本人学校で、補習校はその約二倍の百六十七校もあるのである。)

そのため、現地校の学習も疎かにできず、難解な質問に親子で辞書をひきながら深夜まで学習しているという例は少なくない。(私の長女は中学一年終了後、渡英したが、現地校の学習、もちろん英語について行けるようになるには、実に一年を要し、毎晩のように家族三人頭を突き合わせ、プリントの解説に頭を痛めたものです。これも過ぎてしまえば楽しい思い出なのですが……)そして、この他に日本からの通信教育がある。別に強制ではなく個人の責任なのでやらなくても良いのだが、親の国際理解度に比し、日本国内の現状をよく理解?している中学生達は、全員がこの通信教育(国語、数学、理科、社会)に取り組まなければならぬ。本校の児童、生徒数は約百名であるが、そのうち、通信教育を受講としていない子供は十人もいない。このようにして、月曜から金曜までの現地校での学習と宿題(中学生段階になると大量の宿題が出る)、そして通信教育、補習校からの宿題と正に彼らは三重苦の世界にいるのである。

補習校の先生には誰がなるのか。大きな問題である。

一応原則的には、大学卒業者としてあるが、企業の奥さん(駐在員の)の中にそう適任者がさらにはいないし、又彼らは帰国して行く。いきおい現地永住者を採用することと

なるが、彼らの経歴からしても解るように様々な人生を経験している方々である。しかし、残念なことに外国在住が長くなり過ぎると、口で言えない弊害も出て来る。日本語が適切に用い得ない。日本人的思考ができない。現地的教育方針を取るなど、父母から苦情の出ることもあるのである。このように千差万別の教師をまとめ研修体制を確立するのが私の一年目の職務のほとんどであったような気がする。

○補習校はどこにあるのか。土曜日だけであるので独自の学校を建設できない。よってほとんどの補習校は現地の学校を借用することとなる。(現地の学校は、完全週五日制のため土曜日は空いている)本校で借用しているのは北東部イングランドの中心都市ニューカッスル市の南、ワシントン(米国大統領の祖父の出身地)市にあるオックス・クロス・コンプリヘンシブ・スクール内にある。日本で言う中学と高校を合わせたような学校で十一才から十八才までの生徒が約千人通学している。(英国の教育制度では十六才で義務教育は終了するが、大学進学希望者のために二年間の進学コースがある。)通常は多数の生徒で混雑しているこの学校も土曜日になると誰もいない。そこへ朝早くより待ちかねた日本人子女が高速道路片道一時間をものとも

せず張り切って登校してきます。思いつきり日本語で話し、思いつきり日本人だけで遊び、最新情報やマンガを交換するため、たとえ宿題は忘れていても補習校だけは休まない。よく父母から耳にする言葉である。企業駐在員の子女であるから任期満了に伴い転出者は絶え間ない。その度にお別れ会をし、別れを惜しみ、再会をたくす彼らなのだ。そして新しい友との出会い。

この三年間にどれだけ多数の人と出会い、別離の悲しさを味わったか。日本国内の学校では体験出来ない貴重な経験をさせてもらった。

日本国内での入試地獄を知りながら、雄々しく生徒会長の大役を引き受け、毎週遅くまで残り、運動会を始めとする各種行事の準備を引き受けてくれた日さん。英国に補習校卒業後も単身残り大学進学を目指すI君など。国際的感覚を身につけた彼らの将来にエールを送りたい。

短い三年間ではありましたが、子供たちとの出会い、教育熱心な同僚諸氏、父母、そして何より現地の方々の温かい心に接し、忘れ難い三年間となった。又、いつの日かきつとこの地を第二の故郷として訪ずれる予感がしてならない。



## 補習授業校が抱える問題

ブダペスト日本人補習校

森 本 清 二

### 一 はじめに

ハンガリーは、一九八九年の東欧の民主化により、共産主義体制から訣別し市場原理を取り入れ、経済体制は大きく変わってきた。

ハンガリーは、東欧の中では経済改革が最も順調に進んでいるといわれ、商店には数多くの商品が並んでいる。

また、近年外国からの投資も盛んになり、合弁企業も増加しつつある。

しかし、一方では失業率、インフレなどの社会問題も深刻になってきている。

ハンガリーの首都ブダペストは、人口二百万人を越える大都市である。全人口の五分の一がこの都市に集中しており、政治、経済、文化の中心地となっている。

### 二 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、昭和五十一年ブダペスト日本語補習校として、

小中学生を対象に週三回、国語と算数の複式授業をしたのが始まりである。昭和五十四年、月曜日から土曜日までの準全日制補習授業校として単式授業を開始し、現在にいたる。

本校に通って来ている児童生徒は、朝から午後三時まで、インターナショナルスクールや現地校で学習し、その後本校で学んでいる。帰宅時間は、早い時で午後六時、遅い時で午後七時を過ぎることがある。当然遊ぶ時間はなく、帰宅後もそれぞれの学校の宿題に追われるという精神的にも肉体的にも厳しい生活をおくっている。

### 三 本校が抱える問題点

#### (1) 時間数の確保と教材の精選

準全日制補習授業校ということで授業は毎日行っているものの、各学年の児童生徒が学校に来るのは、週三日である。(表一)

週当たりの時間数は、国語・算数が各三時間、理科・社会(生活)が週一時間と日本人学校の三分の一である。故に教材を教科書中心に置いている本校のカリキュラムでは、教材の精選は避けられないことである。児童生徒の実態に応じた教材の精選と時間数の確保が大きな問題である。

表1 時間割

	月				火			水			木			金				
3:30		1	1	2	4												9:00	社 礼
5:00		2	中	中	中	3	5	6	中	中	中	1	2	4	3	5	6	社 会
6:30			2	1	3										職員研修			理 科
																		中 学 科
																		下 校

(2) 児童生徒の多様化

現地に開かれた補習授業校ということで、本校では日本国籍の児童生徒は勿論のこと、入学基準を満たした日本とハンガリーの重国籍の児童生徒、ハンガリー国籍の児童生徒の入学も認めている。

この結果、年を追うことに児童生徒の多様化は進み、現在、児童生徒三十四名中、重国籍の児童が七名、ハンガリー国籍の児童が五名と全体の三分の一を占めるようになってきた。(表二)

まさに、学校が国際交流の場といえ、ハンガリーの文化・伝統を理解する上では意義がある。しかし、児童生徒の多様化に伴い、いくつかの問題も出てきている。

第一点は、父母の学校に対する希望の多様化である。駐在員の父母は、帰国後の順応や受験中心の指導を強く希望し、重国籍・ハンガリー国籍の父母は日本語の保持を希望する。学校としてこの様々な希望に対応していくのが難しい点である。

第二点は、日本国籍の児童生徒と重国籍、ハンガリー国籍の児童生徒との日本語能力の差である。後者の中には、日本での学校生活の経験が全く無い者もいる。学習の基盤となる日本語能力に差があるので、授業の中で個々の能力

表2 児童生徒の内訳

平成5年1月4日現在

学 年	小 学 部							中 学 部				総計
	1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3	小計	
駐在員子女	6	5	1	4	3	2	21	1	0	0	1	22
重国籍児	0	2	1	1	1	0	5	0	1	1	2	7
ハーフ・国籍児	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	0	5
合 計	6	7	2	5	6	5	31	1	1	1	3	34

に応じた指導を展開するかが大きな問題である。現在、日本語能力が低い児童生徒には、特別時間割りで個別に指導をしている。

#### 四 おわりに

国際社会が拡大している現在、海外に在留する日本人子女の数は年々増加している。また、国際結婚により重国籍の子女も増えてきている。このような状況の中で、補習授業校を含めた在外教育施設の位置付けや役割はますます重要になってくるものと思われる。

どの補習授業校もがもつ学習時間の制約、教材の精選に加えて、多様化する児童生徒・父母の願いと教育活動の変化は避けられないものになってきている。

今後は、一人ひとりの児童生徒の実態を充分把握した上で、教員も研修・研究を深め、父母と協力しながら望ましい補習授業校を築きたいと考えている。

## 近くて遠い国 く台湾く

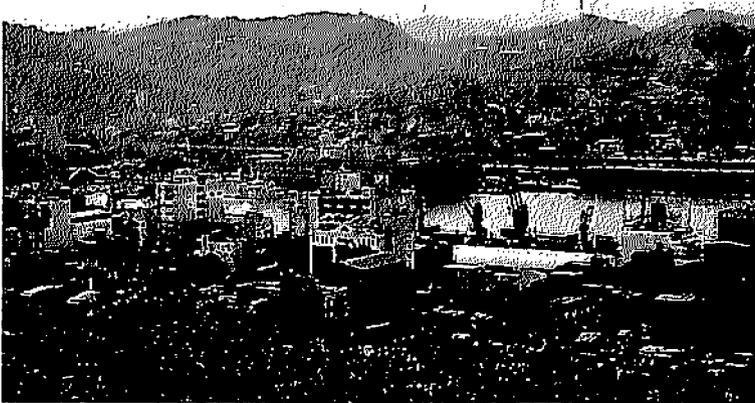
台北日本人学校

教諭 後藤 晋

一九七二年、田中内閣が日中国交を再開すると同時に、日本と台湾は断交する事となった。四十年間の日本統治時代も含め、日本と親密な関係にあった国であり、その交流の歴史は古い。にもかかわらずの断交であった。

その後の二十年間、大雑把な言い方ではあるが、日本と台湾はともに、目覚ましい経済・文化の発展を遂げてきた。両国とも工業製品輸出国としての地位を確立し、貿易黒字額や外貨保有高など世界のトップレベルにまで達している。日台間の貿易も年々増加し、民間レベルでの交流・交易が政治断交後も健在であったことを示している。現在でも多くの邦人が在台しており、主にその子弟が通っている台北日本人学校の規模は世界の在外教育施設の中でも五指に入る大きさである。(千十五名 平成五年一月)

さらに、台湾には、台中、高雄にも日本人学校がある。この小さな島国に、三校もの教育施設があるのである。し



発展を遂げる台湾

かも商店街やデパートには日本製品が氾濫している。人々は衛星放送で日本の番組を見たり、日本の歌を歌ったりしている。しかし、……日本大使館はない。(在台邦人の世話をしているのは、交流協会という所である。)

この事実を、われわれ日本人は、そして台湾の人達はどうのように捉えているのだろうか。日本と台湾の間に国交がないことすら知らない人が多い中で、これから先、日本と台湾の関係はどのようになっていくのであろうか。

最近、台湾と韓国が国交を断絶した。台湾と正式に国交を結んでいる国は、南アフリカなど、極少数の国だけである。韓国のニュースを台湾の地で聞き、人々の怒りや落胆を目の当たりにしたとき、二十年前のことを想像した。

台湾という国は、われわれにとつて、とても身近な国でありながら、政治的にはとても遠い国なのである。



## 世界最大の群島国家インドネシア

ジャカルタ日本人学校

吉備町立岡田小学校 渡 辺 英 信

岡山市立宇野小学校 服 部 誠

椰子の葉にふり注ぐ南国の灼けるような陽射し。たわわに実る色あざやかな果物の数々。ここインドネシアは豊かな自然に恵まれた国です。

世界一のイスラム大国インドネシア。大小一万三千あまりの島々からなり、二百を越すといわれる言語、多様な種族を抱えています。推定人口一億八千万人（一九九一年）。そのほぼ九〇％がイスラム教徒です。

○活気あふれる大都市ジャカルタ

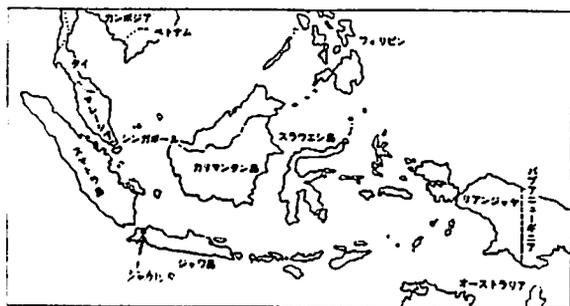
首都ジャカルタは、人口八百万を抱える東南アジア最大の都市です。モダンな高層ビルが林立し近代都市を形づくる反面、旧市街地には、オランダ植民地時代に築かれたパタビアの面影が残る洋館が健在しています。伝統と近代の同居する町でもあります。

早朝四時、モスク（イスラム寺院）から流れるコーラン



かつて“オランダ女王の首飾りと”称された、世界最大の群島国家

の祈りが街を包みます。やがて行きかう人、屋台。パサール（市場）には南国の果実、新鮮な魚介類が所狭しと並べられ、威勢のよい声が飛びかいます。交通ルールを無視するかのようには追い抜き合車。所かまわず横切る老若男女。ものごいする人々。新聞売りの少年。戦後の日本の復興期を思い出させるような人々の姿があります。



ジャカルタ市街の様子

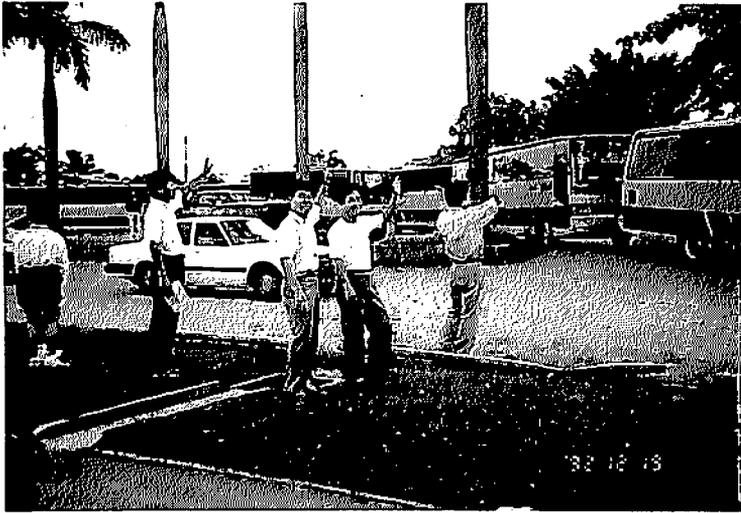
○ジャカルタ日本人学校

(1) 登下校は、スクールバス

ジャカルタ日本人学校は、市街よりやや南の郊外に位置します。小中合同で、昨年末現在、一〇五〇名。校舎にもグラウンドにも、子供が溢れているといった感じです。登下校は、四十台ほどのスクールバスで、朝七時過ぎにはグラウンド横の駐車場に次々と大型バスが集まります。日の出が六時ですから、「早朝」になります。「朝のラッシュを避けよ。」という当政府からの指示からだそうです。下校は、曜日、学年により異なりますが、午前バス（十二時発）と午後バス（三時発）の二回に分かれます。教師は、下校指導の一環として毎日、全員で見送りをします。交通量の多い道路へ入るのは難しく、約二十分間、灼熱の下での汗にまみれた笑顔づくりが、一日の最後の仕事となります。

(2) 行事も充実！

九月下旬の日曜日、小中合同の体育祭は、当地の日本人会にあってても大きなお祭りの行事となります。プログラムは国内とほぼ同様ですが、四つの縦割りに分かれた対抗種目や、応援合戦はとても盛り上がりります。近くの地元の中



一日の終わりは笑顔で

学校代表選手を招待しての友好リレーも話題を集めています。

また、中学校は六月に文化祭、小学校は十一月に学習発表会をします。子供たちに負けないぐらい教師も力を入れてとりくみます。水泳記録会が十二月に行われますが、年間水泳指導をしている常夏ならではの特徴だと思えます。

中学部の修学旅行は、昨年よりバリ島での三泊四日になり、伝統芸能に触れたり、海、山の自然に触れたり、内容も充実し、すばらしいものになっています。

### (3) 日伊友好キャンプ（中学部）

「日本とインドネシアの次代を担う子供たちが、一泊二日のキャンプ生活を通して、それぞれの国や文化をよりよく理解し、友情を深める。」

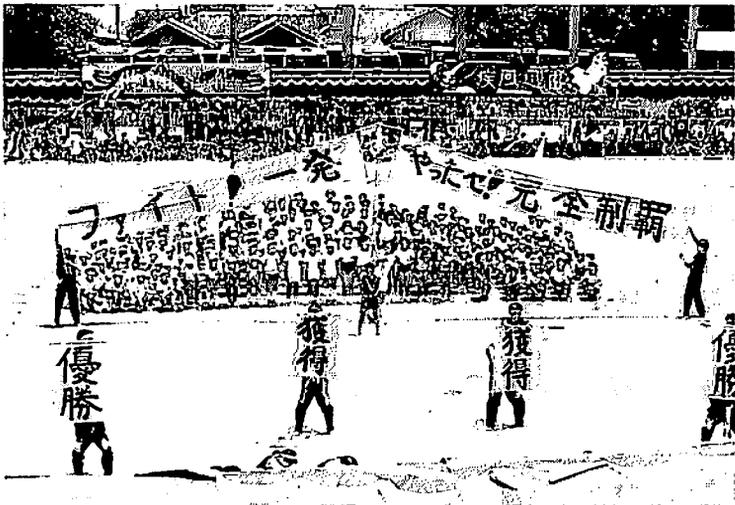
右の目的をもって、毎年九月実施されています。食事を共にしたり、ゲームなどの活動を通して、交流を深めていきます。メインは、夜のキャンプファイヤーです。お互いの伝統芸能を披露し合ったり、歌や演奏を交換し合ったりします。ファイナルでは、日本の盆踊りとディスコで盛り上がります。夜遅くまで、二つの国の言葉が一つになって響きます。

(4) 交流学習（小学部）

毎年十一月、地元の一つの小学校を招待して実施しています。活動は、学年単位で、主に体育館やグラウンドで、ゲームや歌などを一緒にします。グループに分かれての「折り紙」遊びは一つのバターンになりつつあります。また、お互いに名刺を交換し、この日を契機に電話でのやりとりを始めた児童も数名います。

高学年は、それ以前に一日体験入学があります。数名のグループに分かれた児童が、相手校のクラスで一日体験学習をし、一層、友情を深め合う良い機会となっています。

本校では、インドネシアについての理解を深めようと、インドネシア語、インドネシア理解の授業を週一時間ずつ設定しています。



一致団結して、応援大賞！



記念Tシャツで朝の体操



手をつないで入場



身ぶり手ぶりは万国共通

## バングラデシュの子供たち

バングラデシュ日本国大使館付属ダッカ日本人学校

野上雅博

バングラデシュ(ダッカ)での生活も三年の任期が終わりに近づきました。

今回は紙面を借りて第二の故郷ともいえるバングラデシュの貧しい子供達の様子について述べてみたいと思います。

飛行機はジア・インターナショナルエアポートに到着します。先ず驚くことは、はだして裸の子供達が大量「ボクシーシー」(神のお恵み)と言って寄って来ることです。

仕事にありつけない親たちを助けるために、子供達が稼ぎ手となり外国人目当てに寄って来るのです。また車で町を走っていると、あちこちで、信号が赤色に変わるやいなや数人の少女たちが車や力車(自転車でひく人力車)に走りよっていく姿が目につきます。彼女らは、通行人に花輪を売っているのです。彼女らの嘆願するような声、空腹で傷ついた顔、ぼろぼろの服が人々の心を打ちます。花輪一個の値段はたったITK(約三円)。運がよければ日に5〜10TK稼ぐことができます。



子供の労働者

売れそうな物を袋の中へ入れる

街のごみ箱の回りでは少年少女が、ほこりと汚物のなかで汚れながら、紙切れ、壊れた瓶、空き缶等目につくものは何でも大きな袋の中へほうり込んでいます。これらはガラクタ市で売られています。

こうして子供たちは過酷労働と戦いながらの生活をしているのです。もちろん陰の労働者として：

教員としての固定観念が考えさせるのでしょうか。子供は「学校に通う」ということがあります。まただれもが学校に通うべきであると思っているのではないのでしょうか。ところが、よく見かける光景として、前述したような子供がいるわけです。自転車のペダルも踏めないような子供が、力車のペダルを踏みながら収入を得ているのです。それも大人を乗せて歯を食いしばりながらペダルを踏んでいるのですから、そんな光景を見ているとんだかやるせない気持ちでいっぱいになってきます。また、子供の物売り、たきぎひろいなど、かくれた所にはもっとたくさん労働者がいるのです。私たちの考えるお手伝いとはまったく異質のものがそこにあります。働いている子供達は、知りたいとか、学びたいという意欲がありますが子供達は、仕事をしているため学校へ行くことができないのです。

そこで働きながら学べる学校（私立）が何校かあると聞



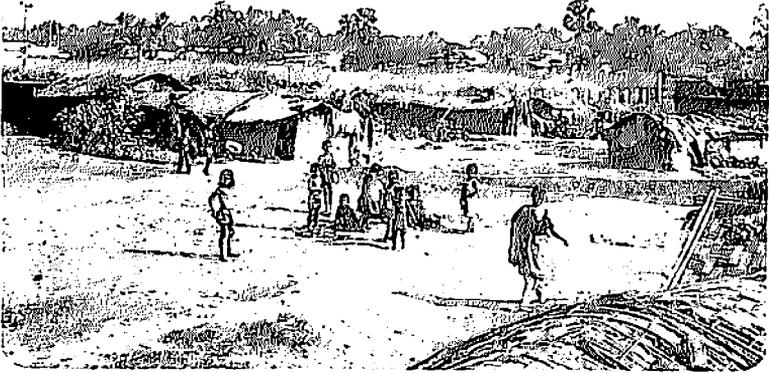
バナナを売る少女

き訪れてみました。貧しくて働く子供達に教育の機会を与えて幸福な生活ができるようにという願いから出発したということでした。家庭が貧しくて正規の学校へ行くことができない子供が来ています。

学校に行くことは、難しいことではないのです。それよりも学校にいくと収入がなくなるということの方が問題が大きいです。学校へは、行けないのではなく、行かないのです。学校を調べている時に、ある校長先生が「八月はお金がなく先生方へ給料もはらえないのです。また、敷地も狭く、電気もなければ机も椅子もないのです。せめて、教室だけと思い空き地にバンブー（竹）で小屋を建てました。子供達には、お金の負担はさせていません。それでも学校に来ることのできない子供達がたくさんいます。この現状をなんとかしてほしいです。」と涙ながらに訴えていました。それにしてもどこの学校へ訪問しても子供達は、私の所にすぐ寄って来ますし、カメラを向けるとポーズをとります。本当に無邪気でいいと思います。やはりどこの国でも将来を背負って立つのは子供たちなのです。教員であるがゆえなのでしょうが、学びたい気持ちをなんとかしてやりたいものであると痛感してしまおうのです。



勤務のあい間、学校に通う子供（後方は学校）



スラムの子供たち



舟のこぎ手の子供

現地理理解教育を通してドイツの農業を探る

デュッセルドルフ日本人学校

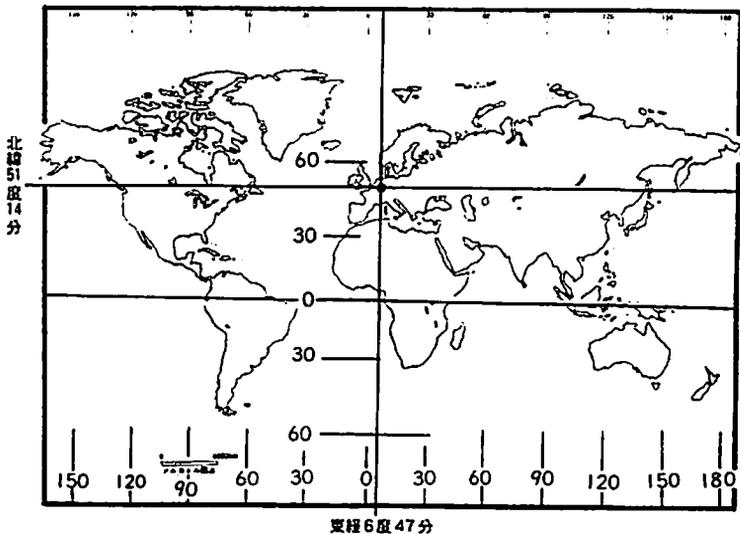
教諭 薄 茂 樹

1 本校の概要と取り組み

本校は、ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州デュッセルドルフ市内に州文部大臣の認可を受け設置されています。児童・生徒総数は、九百五十名ほどであり大規模校の類に属しています。その数からも察することができるよう、在留邦人数も相当の数に達しています。デュッセルドルフ総領事館の発表によりますと、十月一日現在、七千四百四十三名にも及ぶということです。邦人数は、世界的に見て第十一位に位置しています。

このような社会環境の中で、本校は「国際化時代をたくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、その達成へ向けて励んでいます。

取り組み例として、マックスシュューレ、ドンクシュューレ、ツエチリエンギムナジウムなどの現地校との交流。キナーダコーア（合唱団）学校祭、各種地域行事（マルチン祭、クリスマス会、カーニバル）スポーツなどの地域社会



デュッセルドルフの位置

との交流などがあげられます。そして、週二時間のドイツ語授業。

しかしながら、ふれ合いの場のみでは、主観的理解に陥り易く、客観的理解の面が欠落してしまいがちです。強いては、その場の雰囲気のみで国民性をも判断してしまうという恐れもあるわけです。私の考えでは、その国の「人間の営み」について見識を深めたり、思考したりする場が必要であると思います。主観と客観が相互して、現地理解教育がなせるのだと思います。社会科を通しての現地理解教育の例を次にあげてみましょう。

## 2 ドイツの農家 — セロリを育てる —

デュッセルドルフ市は州都であり、商業都市・工業都市の顔を持っていますが、農業は盛んではありません。しかも、一学年百二十名ほどの児童が交通機関を利用し遠方で見学に出かけることも困難です（特にドイツ人は音に対して敏感）。そこで、ライン河畔の広い畑に目をつけ（貸し農園は多い）、何日もその持ち主の現れのを待ち続けました。ある日、持ち主であるフォッセンさんに出会うことができ、片言のドイツ語で挨拶を交わし主旨を説明すると喜んで引き受けてくださいました。（その晩、ワイン



お年寄りのためのクリスマス会出演（ドイツ語の歌4曲）

を持って再度訪問)。そして子供たちと見学に行き、仕事の内容、苦勞や喜び、出荷方法、野菜の種類、ドイツの農業問題などをていねいに説明していただきました。子供たちにとっては、生きた学習になりました。

夏の間の労働時間は十四、五時間であり、午後八時前に終わることはないこと、昔は「良い土地は良いお金を稼ぐ。」といわれていたものが、今では「良い土地でも品物が安くなっているのもうからない。」ということなどをお聞きしました。

そこで、どのような農産物が市場に出回っているのかということ調べてみることにしました。スーパーマーケットやマルクト(市場)で売られている品物のシールを集めヨーロッパ地図や世界地図に貼っていくのです。すると、おもしろいことにスペイン産、イタリア産の物が多いことに気が付きました。子ども達は、どうしてだろうと考えます。さらに調べてみると、十数年前までは当地でも冬になると、ほとんどの野菜が市場から姿を消し、新鮮な野菜を手に入れることすら難しかったようです。しかし、一九五七年E.Cの発足と共にドイツでも他国の例にもれず、各国の野菜が市場に回り、特に一九八六年E.C加盟国が十二か国に増えたことに伴い、近年では季節を問わず新鮮な各



セロリの収穫

野菜が買えるようになってきたとのことです。このことは、逆にドイツ農業を圧迫させる原因にもなったと考えられます。平均、日本の農家の十四倍もの耕地面積を持つドイツの農家も後継者問題に頭を抱えるようになったわけです。セロリのことから、いろいろなことが理解できました。

### 3 おわりに

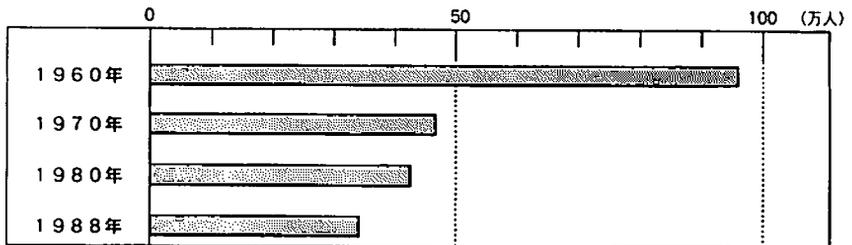
こうやって見てきますと、いかに積極的に働きかけることが大切かということに気付きます。アウスレンダー（外国人）排斥の問題で揺れ動いているドイツ。同じ過ちは二度と起こさないであろうと私は信じています。ドイツで学ぶ子供たちのため、さらに現地理解教育を進めていくつもりです。



セロリ畑でフォッセンさんと



品物の来たまち



(1988年、ノルトライン・ヴェストファーレン州調べ)

農業で働く人のうつり変わり

## 日本と日本人の眞の国際性涵養

のために「地の塩」を育てることを

### ロンドン補習校

成石 壽之

〔ロンドン補習授業校の実態のいくつつか〕

ロンドンでは日本人学校と補習授業校が併設されて、今年（一九九三年）で十七年目になる。また補習授業校は二十七年前に二十名の子供たちの「日本語教室」（会員制）に端を発し、毎年児童生徒数は増加の一途を辿り、昨年の頂上では千八百三十一名を数えるに至った。

児童生徒の大半は日本企業海外駐在員の子女であるが、同じように日本から英国に来てても日本人学校を選ぶ者と補習授業校を選ぶ者とに分かれ、その比率はほぼ一対二である。補習授業校を選ぶ理由の多くは「せっかくながら英語圏に来たのだから現地の学校に」というものであろう。

補習授業校の児童生徒が在籍する現地の学校と言っても種々様々であり、また多数に及ぶ。いわゆる英国の公立校と私立校、それも地域により学校によって内容は複数多岐



日本人学校（アクトン校舎）正面玄関付近

であり、そして国際学校（インターナショナルスクール）等、全部（基礎・小学・中学・高校）で六百校を越える。特に英国の公立校は全て無償であることから多様な国籍の子供達が集まり、三十から四十の国籍の子がいるのはごく普通である。最近では財政的に困難で少なくなつたものの、低学年を対象に英会話を特別指導する学校も少なくな

い。最近の調査によると、補習授業校の児童生徒の約十二％は日本への帰国の予定を持たないか、永住を決めている。毎年「基礎部（日本語を生活言語としていない義務教育年齢の子を対象とする）」への新入学希望が増え、五学級を設置しているが常に「ウェイティング（入学待機）」が絶えない。ここには日本人以外の入学希望もある。

本校では国語科（文部省基準によるが、基礎部だけは日本語科）を学習指導しており、時折各部の授業を体験するが、日本で三十年近く中学校の国語教育を守ってきたのでは想像もつかなかつた、楽しい場面に遭遇する。例えば、日本の国語教育ではどうしても「読むこと」「書くこと」に偏りがちである。特に子供は成長するに従つて「話すこと」から遠ざかろうとする。教室の発言や発表は一部の生徒の活動になつてしまふ。しかし、補習授業校の子供の自

己表現（顕示）は実に盛んで、正に「話すこと」「聞くこと」の学習場面を生き生きと演出することができる。

「典型的な英語圏における補習授業校教育の使命」

「学則」は言う。「本校は、現地校に通学している英国在住の日本人子女等を対象に、帰国後の学校生活が支障なくおくれるよう、国語教育を行うことを目的とする。」

先述のような実態を深く観察するにつけ、もっと積極的な「補習授業校教育」を構想してみたいと考えて、一九九〇年に「補習授業校教育全体計画」を仮説的に設定し、一年間様々な形で折りにふれては検証を重ねてきた。一週間に一日だけの、しかも国語（日本語）科と学級指導、それに十分な時間のとれない学校行事だけで「教育計画」は大仰だとの誹りもある。しかし学校を営み、人間教育を目指す以上、学校教育としての全体像を持ち、何ができるか、どの部分が力及ばぬか、将来どの分野を開拓していくべきかを明確にしていきたいという切なる思いがあつた。

三年ほどヨーロッパに住んでみて最も気がかりなのは、日本で言われるところの「国際性」という言葉である。国と国、首都から首都を一乃至三時間ほどで行き来でき、陸続きで国境を接している国同志は、確かに近い。日本を遠

いと感じる。「人種の坩堝」と呼ばれるロンドンに暮らして、度々西洋人から道や行き先を尋ねられて、また現地人の生活習慣に触れて、却って日本と日本人について新たな側面を発見した気持ちになる。補習事業校の子供たちはもっと深く現地に溶け込んでいる。そのことによって身につけた諸々のものが、日本人としての将来の働きの中で活かされるように、と願わずにはいられない。

そのような願いを実現させるために六つの課題を設定して、これまで少しずつ取り組んできた。

① 現地の学校との交流      ② 教師の研修活動

③ 図書館教育                  ④ 表現指導

⑤ 家庭・保護者との提携      ⑥ 日本国内との情報交換

特に、②教師の研修活動に重点を置いてきたが、今年度から英国地区九校の合同研修会を軌道に乗せることができたのは目立った成果であると思う。



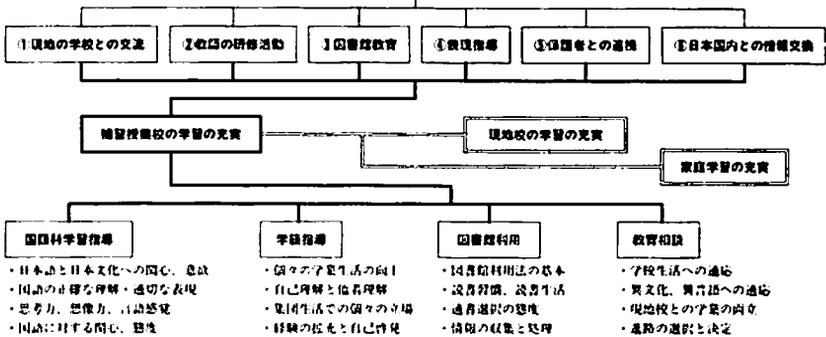
# 補習授業校教育全体計画

## <目標>

1. 異国社会における現地の学校での児童生活を教育の基盤としている児童生徒に、日本の国語教育を中心とする学校生活を体験させ、国語（日本語）の力を高めさせることによって、国際社会の課題に貢献できる人材を育成する。
2. 英米、日本両国の言語と文化の習得の上に豊かな国際感覚を身につけさせて、将来、国境を越えた民族相互の理解・交流盛んな時代の担い手としての良の国際人を育てる。

## <重点課題>

- 現地の学校教育と補習授業校との調和を図ること。
- 補習授業校における国語教育の体系化を図ること。
- 日本の社会・学校教育との相互理解を深めること。
- 補習授業校における教育活動の拡充の方途を探ること。
- 家庭・保護者と学校との連携協力を図ること。

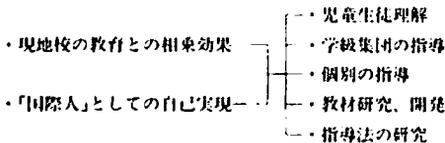


### ①現地との学校との交流

- \* 現地校調査——児童生徒の視点からそれぞれの現地校を理解すること。
- \* 情報の提供——補習授業校の教育について理解を得るための情報を提供すること。
- \* 情報の交換——必要に応じて個々の児童生徒についての情報も交換し合えるようにすること。
- \* 見学・参観——学校や学校生活の様子などを実際に見学・参観し合うこと。

### ②教員の研修活動

- \* 補習授業校の独自性とその使命を踏まえた生徒指導のあり方、学習指導のあり方等。



- \* 補習授業校講師の立場や特性に適した方法、場や機会を工夫すること。
- 研究者や共通のテキスト等による個人研修
- 研修会を設定して行う研修
- 「準備出動」、「反省会」の場で行う共同研究、相互研究、事例研究授等
- 授業日に、模範授業、研究授業、授業参観を通して行う授業研究等

#### ④図書館教育

- ・図書館利用指導——図書館のきまりや約束、分類、目録、検索等についての指導
- ・情報収集、処理の指導——目的に応じた情報源の検索、効率的な収集、処理の方法
- ・読書指導——適書選択、読書意欲の喚起、読書ノート（カード）の作り方等

#### ④表現指導

- \*正しい日本語による会話や発言などの場を豊かにすること。
- \*生活ノート、日記等への関心・意欲を高めること。
- \*個々の特異な体験を大事にし、表現の機会や場を努めて多く持たせること。
- \*作品主義に偏らない、系統的な文章表現指導を工夫実践すること。
  - ・集材指導 } 「情報収集」「自己理解」
  - ・取材指導 }
  - ・記述指導 } 「正しい国語表記」「日本語文法」
  - ・推敲指導 }
  - ・構成指導 } 「読解学習——主題読み、構成読み」等
  - ・表現指導 }
- \*意欲を高める、効果的な評価の方法を工夫すること。

#### ⑤保護者との連携

- \*広報誌（「補習校だより」）を充実させること。
  - ・保護者の声の反映
  - ・保護者の編集への参加等
- \*「懇談会」、「授業参観日」の時期、回数、内容等について工夫すること。
- \*学校の教育活動、行事運営等へのより広範な協力、参加を求めること。
- \*保護者会（PTA）の組織を作り、独自の活動を展開することともに、学校との連携協力を更に強めること。
- \*教育相談活動をさらに工夫し、充実させていくこと。

#### ⑥日本国内との情報交換

- \*日本国内の社会、補習子女を受け入れる諸機関・学校へ、補習授業校児童生徒の実態、学業生活の状況等を、あらゆる方法で知らせること。
  - ・文書
  - ・広報誌
  - ・現地校調査の結果
  - ・児童生徒作品 等
- \*祖国転校先の学校へ、個人がそこで適応し、生かされるために必要な情報等を提供すること。
- \*日本国内の教育や進路状況等について、様々な機関からできる限り多くの情報を収集・整理し、教育相談などの機会に活用すること。

# 世界の国々に学ぶ

## 帰国教師のレポート

1. 「ちがい」を理解する-----西崎 正明
2. マニラ日本人学校における日本語指導-----森 英志
3. 正しい日本語の環境づくり-----竹本 健司
4. コスタリカの選挙-----山田 羊平

## 「ちがいがい」を理解する

元カルカタ日本人学校

元フランクフルト日本人学校

岡山女子短期大学 西崎 正明

### 一 はじめに

インドのカルカタ日本人学校と、ドイツのフランクフルト日本人学校へ派遣され、それぞれ三年間生活をした時、自分の持っていた日本の生活習慣や考え方では理解できない事を多く体験した。

現地の人達は、その国のその地域の生活習慣や考え方を当たり前として実行しているだけで、日本人の方がおかしい筈であるが、我々をちがった存在として見るのではなく、仲間としてつきあってくれた方が多かった。

日本人の子供達が現地の学校へ入学を希望する時、言葉の問題などの障害があるのにもかかわらず、受入れて呉れた。反面、海外生活者の日本人の子供が一時日本へ帰国し、公立の学校へ体験入学を希望した時のトラブルや手続きの煩雑さや、最近増えてきた日本で働く外国人の子供が公立の学校へ入学を希望した時のトラブルを考えてみると

その対応の仕方のちがいがみられる。最近では、海外に出る日本人が多く、しかも特定地域へ集中する傾向があり、海外で日本人に対する制限が始まった反面、日本では外国人受け入れに工夫がみられてきたが、まだ、基本的な考え方が変わったとは思えない。

### 二 インド・ドイツでの生活

両国で数多くの体験をしたが、紙面の都合で、両国の考え方・生活習慣の代表的なちがいを経験させてもらった例を少し述べてみる。

#### (一) インドで

インド人達の生活を見ると、その全てが宗教に裏打ちされているので、貴方の宗教はと聞くと、即座に自分の宗教を答える。特にインドは、国の宗教として、特定なものでは決めず、七つの宗教を認めている。(ヒンディ教八四% イスラム教一一% キリスト教二% シーク教一・七% 佛教〇・七% ジャイナ教〇・四% パーシ教〇・一%) 私の場合は、自分の生活の中に宗教を意識した事が殆ど無かったので、貴方の宗教はと聞かれたとき、何時もとまどい、強いて言えば、佛教かなと答えていた。

インド人の大多数がヒンディ教徒なので、生活もヒンディ教に従った事が多かった。日本人は何かしてもらったら感謝の気持を、言葉か物で表わそうとするが、彼等は（特に使用人達）何かしてやっても、ありがたうの言葉もかえってこなかったし、何か失敗しても、すぐあやまらず、必ず理屈を言つて自分の失敗を正当化してしまう。最初のうちは、腹が立ち、この野郎と思つていたが、ヒンディ教のお教えの中に、「業」と「輪廻」があり、富める者が貧しい者に「施し」をする事は当り前で、富める者は良い事をすれば、来世に良いめぐり合せで生れ変わる。貧者はお礼を言われても、お礼を云う必要はないという事が分かり、自分は富める者とは思わなかったが、腹を立てる回数が減つていった。

インドには特有な制度「カースト」がある。インド憲法では、この制度を認めていないが現実の社会では見事に機能している。この制度は、当初アーリヤ人がインドに侵入した時に、侵入者（白人）と現地人（黒人）を区別するために、アーリヤ系人を三つの階層（バラモン（僧侶）・クシャトリア（武士・貴族）・ヴァイシャ（商人））に分けそれに現地人の一階層（シユドラー（労働者））を加えた、四つの階層が生れた。最初はアーリヤ系と現地人を区

別するものが、権力や力関係でアーリヤ系の中でも上下関係が生れ更に肌の色で明らかに上下の差別となり、そのうえ、ヒンディ教との結びつきで、制度として確立された。四階層がその中で更に細分化され、生れや職業が浄、不浄と関連づけられ厳然とした上下関係となり現在も機能している。

我が家に使用人が三人（ドライバー・コック・アヤ（子守り、洗濯））学校に四人（ドライバー・ヴェアラ（用務員）・ダルワン（門番）・スウィパー（掃除人））居た。

彼等の仕事を見てみると、仕事の内容によつてする人間が決まつて居り、他の仕事は決してしない。特に自分の所属するカーストより下位になる仕事は絶対手を出さない。我が家で食事のあと片づけをする時机の上と床のそうじは別の人間がしていたし、学校でも、教室に虫がいるから薬をまくようにヴェアラに言ふと、「はい」と返事をするが彼はせずにスウィパーにさせて居た。

モスリーの家具商と友達になり、ある時彼の家へ遊びに行った。インドは大家族制なので、両親、兄弟、親類などが大勢生活を共にしていた。集まつてきた兄弟達に煙草をすすめたところ、誰も手を出さなかった。そして「長男

(家具商)が仕事をしている時は、他の者は椅子にもかけず、勿論煙草など吸わないのがインドの習慣だ」と言われた。

彼は私のためにココナツヤシの実をとって呉れていた。又、彼はよく我が家にも来たので、ビールなどを出すと、平気で飲んでいた。君はモスリーではないのか、モスリーは酒は飲まない筈だと言うと、私はモダンモスリーだと言いい、外では飲むが我が家では決して飲まないと言っていた。

## (二) ドイツで

ヨーロッパ(ドイツ)は契約社会だから、契約内の事については忠実に履行するが、その内容以外は、例え関連があっても関係なしになる。したがって契約内で違反があればすぐ裁判という次第になる。トラブルになっても解決できるような多くの保険制度があり、いくつかの保険に入らされたが、その中の一つ、弁護士保険は裁判対策のものであり、特にドイツは有名なアウトバーン(高速道路)があり、車社会なので、交通事故に対応できるものであった。

例え交通事故にあっても、軽い意味の「すみません」も言わないように、先にあやまると、全て悪い事になるので

事故処理でトラブルになったら、弁護士に任せればよいと言われた。

或る時、職員の子供が家の近所で母親と一緒に遊んでいて、あやまって路上にとび出し交通事故にあった。その時の事故処理に当った警察官が、母親に次のように告げていた。「子供が親と一緒に居て遊んでいる時は、親に絶対の監督義務があり、そこで生じた事についてはすべて責任をとらなければならない。通常の道路でルールに従って走行している車と接触して怪我をしても、車には一切の責任はない、若しその事で車に損害を与えたら親がその車の損害を保障しなければならぬ」と、その職員の子は骨折をしたが何もしてもらえず、親が悪いという判断であった。

店屋の前では、行列をして自分の順番が来るのを辛抱強く待っている光景をよく見かける。或る時、パン屋で短い行列のあるのに気付かず、手のあいた店員がいたので、その前に行き注文をしたら売ってくれず、あそこに並んでいる人が先だから並びなさいと云われた。列の後尾に並びに行ったら最後尾の人が、お前の順番は私より先だと云ってその人の前にいれてくれた。

ドイツ人は、住環境を非常に大切にしている。自分の家は勿論、近所の家についても、又通りなどについても注文

が多い。特に音については厳しかった。日本人学校を新築した時、校舎建設敷地の緑地回復料を、又、グラウンドを全天候型にしたら、生態系がこわれるから透水性のある材質を使い、更に緑地回復料と云って高額の金銭を二回も請求された。又日課を知らず「チャイム」を設置する時、校舎内には音が出てよいが、グラウンドなど外には音を出さないようにと言われたので、外で遊んでいる子供達にはどのような合図をするのだと聞いたら、それは光で合図をすればよいと簡単に云われた。

又、我が家でも、日曜日に芝刈りをしたら、日曜日は安息日だから芝刈りなどの音を出さないようにと、又雪が降った時、貴方の家の前の雪はずぐ取り除きなさい。若し、除かずに貴方の家の前で通行人がすべて転んで怪我をしたら貴方の家の責任ですよと言われた。

### 三 外国（ドイツ等）から見た日本観（日本人）

新築した日本人学校をヘッセンドライというテレビ局が取材して、放映する時、アナウンサーが次のようにコメントをしていた。「厳格な規律、古来からの伝統に基いた階級組織といった日本についての先入観が、現実ではどうであるかを探究した結果、従来云われている事の全てと同時

に反対の事実も見出した。生徒たちの勤勉さ、集中力、熱心さに感心し、又、日本の伝統とキリスト教の伝統を統合させようとする能力に驚いた。ハイテクという現代の先頭を切る分野も勿論見出した。

朝は始業一五分前には殆ど登校している。全校集会も、しばしば行われ、数百年外国の影響を受けなかった島国民族の同等意識は、集合の時などに見出され、生徒が歩調を合せて一列行進で順序よく入場し、先頭にクラス委員が立ち、クラス毎に整列し、遅れて来たものは、必ず自分の位置に行くことも忘れない。」

運動会のビデオを見せて、「団体の中で皆同じである事が大切で、例えばグループとしての成果が、個人としての成果に優先する。同族意識、運動で云えば、組に帰属し、同一化するという考え方が、ひいては子供達が後に会社へ入った時でも要求される。幼稚部の生徒から校長まで何の苦もなく一体になって日本のリズムにとけこんでいる」（ソーラン節を踊るシーン）校歌の「世界にはばたこう」という歌詞を聞いて、「この子供達の道に横たわる緊張の場面即ち西の自己主張とアジアの伝統である適合とを誰が理解しているのだろうか」

あるドイツ人が日本人について思い出す事は、お鮎し、

魚、サムライ、カミカゼ、芸者、神社、笑顔、親切、礼儀正しい、働き過ぎ、よくおじぎをする、ことだと言っていた。

フランクフルトでは、「メッセ」（見本市）がよく行われるが、その一つで割合大規模なものに、自動車のメッセがある。これについて、ドイツ人達は自動車の未来についての基本的な考え方を提示して、賛否両論を戦わせるが、日本人はシヨールとし、ニューモデルやめつたに見られない車をただ感心するだけで、自分の生活とは結びつけていないとも言っていた。

#### 四 まとめ

世界各国は、過去の歴史のなかで色々と変遷を経て現在がある。私が生活した、インド、ドイツのわずか二ヶ国について考えても極端に「ちがいが」があり、何れの国も二千年以上の長い歴史があり、特有の文化をもっている。日本も両国に劣らない二千年以上の歴史をもち日本固有の文化をもっている。日本が海外に出て、色々な国と接すると、これらの「ちがいが」に必ずぶつかると。その時先ず、この「ちがいが」を知ることであり、次にこの「ちがいが」の生いたちを理解することであり、最後は、その「ちがいが」を認

めることである。同時に相手を知り、理解し、認める段階で必ず日本を知らせ、理解させ、認めてもらう事も大切なことである。異文化の接点に居ると、知り、理解する事は少し努力すると出来るが、認める、認めさす事は言葉で云う程簡単ではない。

上智大学のグレゴリー・クラーク教授が著書「日本人（ユニークさの源泉）」の中で次のような事を書いている。

「日本における人間関係は同心円的である。「たまねぎ」のように中心から外部に向かって層をなす人間関係の「輪」でとり囲まれている……日本人には、いわゆる私的道徳と公的道徳がある。自分の集団内では思いやり深く細心な日本人が、その集団外では全く別人になる……」

欧米社会では、自己の良心に対する忠誠を、たとえそれが集団の利益と背馳しようとも、重要な徳とするのが普通である。……日本人の道徳観は、人間関係に対する見方と同様集団主義的環境の産物で、この関係を律する為に生れてきている（儒教文化）

欧米の道徳観は、個々の人々の内面的行動から、はるかに遠く外国人に対する態度に至るまで、すべてを対象とする普遍的、客観的、かつ厳格な一連の原則である（キリスト

## 教文化)

フランクフルトで、韓国人営業マンと知り合い、短い期間であったが付き合った。その時の彼の起居振舞いに接して、彼は東洋人だなど親近感をおぼえた。その彼が東京に転勤になり、日本で仕事を始め、最近彼と久し振りに会って話をしていたら、日本では仕事がし難い、ドイツの方がずっとし易かったとなげていた。外国人達の話しの中にも、中国、韓国とは仕事がし易いが日本は難しいという事を聞いた事がある。中国、韓国はアジアの国々であり、文化も日本と同系統だと思っていたが、考え方、物事の処し方などは日本より欧米に近いのではないかと考えられる。これからの日本は(日本人)海外で生活をし、仕事をする事も多くなると思われるが、それは、日本の仕組みとその国の「ちがう」仕組み(文化・考え方・習慣)と接する事であるから、摩擦やトラブルが生ずる事は当り前である。そこで、この接点に居る人達が先ずその国を知り、理解し、認めることが先決で大切な事になる。又最近日本にも多くの外国人が生活をし、仕事もするようになっているので、日本の中で外国人と接する人達も、その外国人の国の事を知り、理解し、認めてあげることが大切な事になる。

海外で生活をしていると、その滞在年数によって考え方が次のように変わってくると思われる。

① 初めて知らない土地で、挨拶をされたり、親切にされる時、この国の人達はなんて親切な人達なのだろうと感激をする。

② 生活が少し長くなると、声をかけられることが、感激から、うるさくなり、何故こんな事でいちいち文句を言うんだろう、日本ではちがうんだぞと、けちをつけだす。

③ 更に長く生活をして、その国、その土地の習慣などが身近に共有できるようになると、自分と同じ事を考える人も居るんだなど、自分の生活をその国、その土地に合せられるようになる。

この段階まで来ると、文化・習慣・考え方の「ちがいは、その国の歴史、生い立ちから当然だと思われるようになるし、更に、人間としては、どこの国の人達も、例えば、目の色、皮ふの色、髪の色などが違っても、喜怒哀楽を感じる心は皆同じなのだとかわかって来る。

## マニラ日本人学校における日本語指導

元マニラ日本人学校

岡山市立鹿田小学校 森

英志

はじめに

マニラ日本人学校は、児童生徒数四三一名（平成四十年現在）、広い敷地と鉄筋校舎など整った環境にある。

治安、経済が不安定なフィリピンであるため、在任中もクーデター事件、湾岸戦争によるテロの恐れ、バギオ大地震などの自然災害と数々の出来事により、休校を余儀なくされることが何度もあった。しかし、子供達は、自由な校風の中で明るく伸び伸びと学校生活を送っている。

ところで、国際化の進む中、日本国内では、南米を中心とする外国人労働者の急増で、学校における外国人子女への日本語指導のあり方が大きな課題になっている。

マニラにおいても、戦前からの日本とフィリピンの関わり深さ、国際結婚の増加から、主に日本人を父に、フィリピン人を母とする混血児童の入学が急増してきた。その多くは、日本語未習熟のまま入学してくるため、その指導

をどうするかが、本校の課題の一つである。



マニラ日本人学校

## 日本語指導の歴史

マニラにおける日本語指導の歴史は古い。

戦前にもマニラには、日本人小学校があり、やはり現地  
で生まれ育ち、日本語が不十分である子供たちのために日  
本語特別教室があったと記録にある。(この日本人小学校  
については、深田祐介著「炎熱商人」にもふれられている  
が、太平洋戦争で閉校になった。)

戦後になって、昭和四十三年、本校は、マニラ日本語補  
習学校として七二名で開校。昭和五十年に日本大使館附属  
日本人学校として認可された。昭和五十一年から五十五年  
までは混血児童の入学はないが、昭和五十六年からは数名  
が入学している。しかし、昭和六十年以後は急増、全入学  
児童の二十〜三十パーセントを占め、平成元年には約四十  
パーセントにもなり、その半数以上は日本語が未習熟で  
あった。本年(平成四年度)も、約二十五パーセントを占  
めているとのことである。

当初、日本語指導は人数が少なかったこともあり、学級  
担任による放課後の補習という形で行われた。対象児童の  
増加により、昭和六十一年度からは日本語指導補助教員一  
名を配置、昭和六十三年度からは、日本語指導担当一名に  
より一週間十時間程度、母学級から抽出して、指導を行っ

た。(補助教員、担当とも中学部の授業を持ちながらの兼  
任であった。)

平成二年度になって、この混血児童の急激な増加が文部  
省から注目されることとなり、日本語指導専任として派遣  
教員一名の増員が認められた。そこで、派遣三年目の私が  
その任にあたることになり、主として一年生を対象とする  
日本語教室を設置し指導を行った。

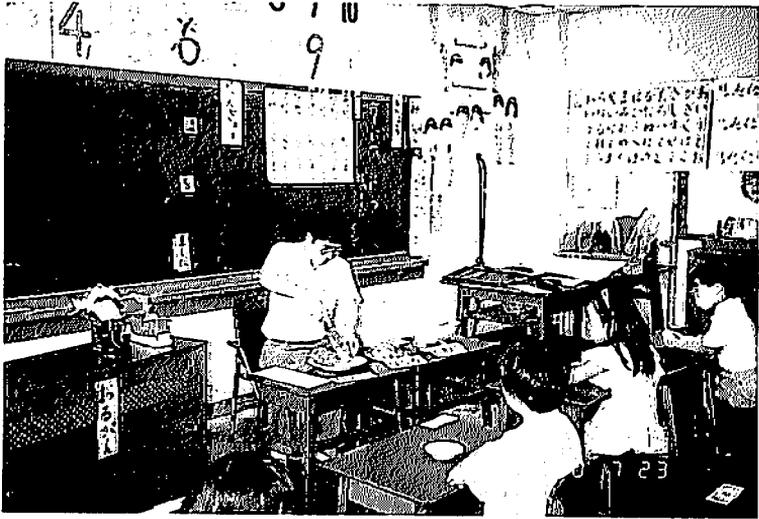
### 日本語指導の内容

初年度、日本語指導として次のようなことに取り組ん  
だ。

- 一、日本語教室としての専用教室の確保と環境整備。
- 一、日本語指導のための資料収集、教具作成、教材開発。
- 一、日本語習得度診断テストの作成。
- 一、日本語指導に関する年間カリキュラムの作成。

指導の時間としては、一週間に十五時間、通常の授業時  
間(国語、理科、社会)と放課後に母学級から抽出して行  
うこととした。平成四年度は一週間に二十時間、国語、算  
数の時間と放課後を使って指導している。

日本国内で使う一年生の国語教科書は全く使用できない  
ため、大部分は手作りの教材を活用している。ゲームや歌



日本語教室

を取り入れる、実物や模型を使う、視聴覚教材の活用を図るなどして、楽しく遊ぶ中で、語型や読み書きなどの日本語の基礎を身に付けると共に、日本的な生活や文化に目を向けていくような教材開発を心がけた。

一年間の実践をもとに作成した、マニラ日本人学校向けの日本語指導年間カリキュラムは下の表の通りである。専任が一年ずつで交代する中で、これらの取り組みは、よりよいものを目指し、現在も研究が進められている。

おわりに

専任による日本語教室が始まって、本年（平成四年度）で三年目。さまざまな課題を持ちながらも、指導は少しずつ軌道にのってきている。本年度の専任によると、下の年間指導計画をもとにして、独自のテキストを作成し、これに沿って指導をすすめる、効果を上げているとのことである。

本校の日本語指導において、最も大きな課題は、学校と家庭との連携をどう進めていくかである。対象となる児童には、入学前に保護者同伴の面接を実施し、実態把握に努め、学校への協力を求めている。やゝもすれば消極的になりがちな母親に、特に協力を依頼し、大使館の日本語教室

などを活用し、児童と共に日本語を学んでいくように勧め  
ている。また、学校の指導方針や指導法を理解するよう日  
本語教室の参観を強く呼びかけ、日本語教室だよりも発行  
している。しかし、日本人の父親が不在がちな家庭ほど母  
親の協力、意欲が長続きせず、児童の日本語の伸びも少な  
いのが現実である。

子供たちは、日本人として育てたいという、主に父親の  
強い願いから日本人学校に入学してくる。が、将来の生き  
方とも関わるだけに、日本語指導だけでなく、進路を含め  
て、保護者との十分な話し合いをもとに、見通しを持った  
息の長い取り組みが必要である。国際理解教育が重視され  
る中、日比双方の友好のかけはしとなる国際人の育成を目  
指し、日本語指導の一層の充実を願うところである。

※参考文献

「平成二年度 日本語指導の記録」

マニラ日本人学校



日本語教室での楽しいお弁当

日本語指導年間カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
話す・聞く	正しい形での発音・発声 日常生活に因縁の深い語彙・文型の練習 学校 → 家庭生活 ・返事 ・挨拶 ・名前 ・自己紹介 ・数(1~10) ・からだ ・色 ・指示語 ・疑問、欲求 ・比較の表現	日常生活に因縁の深い語彙・文型の練習 学校 → 家庭生活 ・基本の動詞 ・学校・時刻 ・先生・お弁当 ・目付 ・数(1~10) ・天気 ・家族 ・指示語 ・疑問、欲求 ・比較の表現	会話を豊かにするために語彙・文型を増やす ・形 ・序数 ・助数詞 ・比較の表現 ・過去の表現 絵本・童話・紙芝居を聞く	・しりとり ・かるたとり ・助詞の使い方 ・進行形の表現	会話をなめらかにするために、正しい語彙・文型の練習 ・電話のかけ方 ・買い物ごっこ ・上位概念 ・疑問を持ったことを尋ねる ・したいこと、思ったことを話す	・伝言ゲーム できごと(きのうのこと)を話す 共通の経験を話す (1文)					習得した語彙・文型を正しく使う練習 紙芝居や劇的な活動で表現する	
読む	周りの事物の名前に興味を持つ	ひらがなを読む 単語(事物の名前)を読む	教科書の音読をする 一文ずつ読める	段落ごとに読む	教科書を音読する 全文を読む	全文をスムーズに読む	絵本・童話を読む				教科書の文章のスムーズに読み、内容を読みとる	
書く	鉛筆の持ち方、正しい姿勢、運筆の練習をする	ひらがな五十音、単語を書く 清音 → 濁音 → 半濁音 → 促音 → 長音 幼音 幼長音			カタカナ、漢字の練習をする	漢字註しりの単語・文を書く					複写・聴写の練習をする	
国語科		あおひさま あかるい	さるがくる	はなのみち おはようてな	しっぽやくめ おはようてな	おこすりりん おむすびりん	じどう車 くらべ	ものなまえ	たぬきの 糸車	花いっばい あはれ	どうぶつ ちゃん	たのおはなし
他教科	学校たんけん(社) 数字(算)	あたまが おきの(理)	時刻(算)		近所 の公園(社)	あそび 道(社)	学校へ くる道(社)	ふゆの ようす(社)				
学校行事など	身体測定	子どものほり 日記	えんそく	七夕まつり	なつやすみ	水泳大会	おまつり フェスティバル	ヨナクニサン	お正月 クリスマス	運動会	節分 えんそく	ひなまつり

## 正しい日本語の環境づくり

元グアテマラ日本人学校

大佐町立刑部小学校 竹本 健 司

### 一、日本語習得力の低下

グアテマラ日本人学校は、小学校と中学校の児童生徒を合わせて二十名前後という小規模学校。派遣教員六名、現地採用教員五名で、教科担任制の単式授業を行い、小規模学校の特色を生かした個別指導の徹底を図っている。教師と子供が一对一という授業もある。

私が赴任して、まず気づいたことは、子供たちの日本語の習得力が、限られた日本語の言語環境の中であって、必ずしもその子の発達段階に即していないということであった。その言葉の習得力の低さが、全ての学習に大きく影響し、一般的な学力の低下を招いている。基礎学力の向上を促すための、最も基本的で急を要すると思われることは、それらの子供たちに、いかにして日本語の力を付けさせるか、という課題であった。

海外の教育も、日本の国内と同じ教科書で同じ指導要領に添って指導される。しかし、日本とは全く異なった社会

や自然環境の中のこと、日本の学校では考えられない色々な障害に突き当たることになった。

たとえば、教科書に四季についての記述があっても、四季のない国で生活している子供たちには、季節的な実感が理解できない。現地国で生まれ育った子供たちが半数以上も在籍している学校であった。思わぬ質問が飛び出してきて、先生を驚かせる。

「先生、雪って、アイスクリームの仲間なの？」

この質問の小学部二年生の子は、生まれてこのかた、まだ一度も実際の雪を見たことのない子供だった。

朗読をさせていたら、「うぐいすが鳴きました」という文章を「うぐいすが鳴りました」と幾度も読み進める小学部四年生の子がいる。よく調べてみると、その子にとって鶯とは、鳥の形をした土笛だったのだという。そういえば、グアテマラの民芸品には、鶯によく似た土笛がある。

言葉の生活経験の不足から、語彙も貧しい。語彙の貧しさは、直接、漢字の習得にも影響する。漢字を反覆練習して覚えさせても、意味が分からないまま漢字の形と読みだけを丸暗記していたりする。「落人」という漢字を（ラクジン）と読み、「落語家のように呑気な人」という意味だろうと言った中学部三年生がいて、その見事な誤りっぷり

に、生徒と一緒に大笑いしたこともある。

アクセントやイントネーションは、もっと混乱していた。まず、家庭の両親の影響が強い。たとえば、両親が大阪出身であれば、子供たちも必ず大阪訛りを受け継いでいる。

この訛りの矯正は難しく、相当の根気がいる。

学校内での言語環境も複雑だ。海外の学校は、先生も子供も、北海道から九州まで日本中の訛りや方言が寄り集まった集団だと思つてよい。国語科担当の先生の出身地の方言やアクセントが学校中を風靡したり、リーダーシップを取る生徒の口癖やイントネーションが学校中に蔓延したりする。この傾向は、日本の学校でも見られることだが、海外の学校にあつては、いっそう顕著になつてくる。

もう一つ、海外での日本語教育の課題といへば、その国の共通語——グアテマラであればスペイン語——のアクセントが、そのまま日本語の中に混ざり込んでくるということである。たとえば、「竹本」を日本流に呼ぶと、「タケ（ノ）モト」と「ケ」が高くなるが、スペイン語だと「タケモ（ノ）ト」と「モ」が高くなる。極端に言うると、「ターケモー（ノ）ト」と長音化したりする。海外で生まれ、その地でそのまま育つてきている子供たちは、日本語



アンデルセン童話の宮殿のような学校

よりもスペイン語の方が達者な子もいたりして、他に及ばず言葉の影響力には、根強いものがある。

また、現地で生まれた子供たちだけに限らず、その保護者が一定の年数を限って日本から派遣されている商社マンやジャイカ（海外技術協力者）、大使館・学校の職員などの子弟でも、在籍して、二年、三年と経つに従い、同じように日本語の習得力不足の傾向を辿り始める。

## 二、特設「日本語教室」への歩み

日本語の習得力の低い子供たちの実態調査をしてみると、次のような傾向がはっきりしてきた。

- 発音……発音が消極的である。まとまった構文にならず、単語の羅列となる。人前でうまく話せない。
- 発声……アクセントがスペイン語化し、不自然である。正しい口形でなく、発声音も小さい。
- 文字……美しく正しい書写ができない。漢字の習得が不十分で、誤用が多い。筆順にも誤りが多い。
- 表記……表記に対する言語的感覚が薄く、誤りが多い。
- 語句……語彙や語句の量が少ない。語感が貧しい。
- 文及び文章……正しい構文ができず、文章構成力がない。



だれが生徒か先生か分からない

○言葉づかい……論理的な思考や表現ができず、場に応じた表現や敬体と常体の使い分けができにくい。

つまりは、正しい日本語の生活経験や学習訓練が少なく、関心も薄いというもの。特に、語彙量が少なく、発声や表現の誤りが目立つ、という実態であった。

教師集団の側にも反省を加えてみた。

これまで、学力と日本語の習得力との相関関係についての実態が把握されていない。日本語教育に対する認識が低調で、知識詰め込み型の指導法に偏向していた。現地採用教員が不足し、派遣教員の授業の持ち時間が多過ぎたため、研究に要する時間と精神的な余裕が持てない。また、リーダーシップを取る教員も育っていない、などが反省点として上がってきた。

早速、校内研究体制の見直しと強化を図ることにした。

まず、研究に要する時間的・精神的な余裕を得るために、現地採用講師を増員し、それによって、お互いの研修時間を確保した。

共同の研究としては、研究授業を中心に月一回の研究日を持ち、「児童生徒一人ひとりの日本語習得力の実態把握と、それに対する指導法の研究」を中心に実践と論理研究



現地のハイ・ティーンズの表情は明るい

を進めること。一方、個人の研究としては、授業実践を中心として、教育課程における国語科とは別に、その時間数に上乘せする形で、一学年が週二時間、年間八十八時間の「日本語学級」を特設することとした。これは、小・中部を通して学年の枠を外しコース別に再編成したもので、全教員でコースを分担し、個別指導を徹底していく。

○入門コース……基礎的な事項を網羅する。

○発音コース……発音・発声・言葉づかいを含む。

○漢字コース……文字・書写を含む。

○語法コース……表記・言語に関する事項を含む。

○語彙コース……語句を含む。

の五コースとした。このほかに、「読書」や「作文」のコースも必要であるが、これは、読書指導や作文指導として別途に全校で取り組むこととした。子供たちは、自分が最も必要と思うコースから入級できる。一コースを修了すると次のコースへ入級していき、どの子供も一年間で全コースが修了できるシステムとした。

勿論、校長も一コースを担当する。教室が足りないので、校長室へも机や椅子を運び込み、教室として使った。

「校長室を教室に使っている学校なんて、珍しいだろうね。早く学校を建てたいね」

と言いながらも、私にとつて、この授業が最も充実した時間となった。子供たちも「校長室勉強」と呼んで楽しみにし、始業ベルが鳴らないうちから入ってくる。その瞬間から校長机は教卓に早変わりする。

急に来客があるときに、困る。仕方がないので、ベランダに椅子を出して対応する。

「すみません。校長室は、今、子供たちが勉強をしているものですから」

と断ると、客も心得ていて、

「いいです、いいです。学校は、子供が神様ですから」と言ってくれる。

### 三、正しい日本語の環境づくり

日本語の指導は、特設の「日本語教室」だけで達成できるものではない。教科・道徳・特活に限らず、学校生活のすべての場に意図的に行わなければ成果があがりにくい。

「日本語教室」に合わせて、次のような環境づくりと指導の手立てを総合的に進めることにした。

#### ○図書館の新築と図書・資料の充実

校地内に別棟の図書館を新築し、図書や資料を充実していった。ここには日本人会の図書も収蔵して、日本人会の

文化センター的な役割も果たすよう努めた。

○「読書指導時間」の特設

週一時間の「読書の時間」を特設し、日常生活の中での読書の習慣化を意図的・計画的に進めた。

○作文指導の重視

作文指導の場を広げていった。年間文集や修学旅行記録を精力的に発行した。観光的な要素の修学旅行を廃し、マヤ文明遺跡の調査研究を積み上げていく実地踏査に切り替えて、その記録文集として集大成していった。「海外子女文芸作品コンクール」への応募なども積極的に進めたが、毎年、大勢の子供たちが入賞を果たし、「学校賞」も連続して受賞するようになった。

○「経験発表会」の実施

長期休業の後には、児童生徒全員による「経験発表会」を実施した。一人ずつが全校児童生徒の前で、自作の資料などを示しながら休み中の経験を発表し、正しい話し方や聞き方の学習をした。

○学習発表会による総合学習

学習発表会の一環として、英語劇、スペイン語劇、それに全児童生徒によるオペレッタの発表のステージ部門を設け、表現活動の総合学習の場とした。この学習発表会に



密林の中のマヤ遺跡「ティカル」へ修学旅行

よって、児童生徒の「正しい言葉への意識化」が大きく変容し、日本語だけでなく英語やスペイン語においても、有効な生きた学習の場となっていた。

#### ○「正しい日本語で進める授業」の実践

全教員・全児童生徒が、正しい日本語で授業を進めることに努力した。また、授業だけでなく日常の会話においても、折に触れて正しい言葉使いをさせることに心掛けさせて効果を挙げていった。

#### ○保護者への啓発と協力

正しい日本語の環境づくりについて保護者への啓発と協力を図っていった。

#### 四、教育は教師の態度の問題だ

子供たちは、大きく変容した。言葉への意識化が要因となって、生活や学習のうえでの自信となり、学校のふんい気に活気が増した。三年という限られた赴任期間の中で、少しでも学校運営に成果が見えてきたということは、教職者として、このうえない冥利である。

「校長が替われば学校が変わる」という言葉があるけれど、グアテマラ日本人学校は、私たちが帰国した後も同じ方針で、充実した日本語教育の環境づくりが進められてい

る。月々、現地の学校から私の手元へ送られてくる学校会報や生徒会だより、それに文集や学習発表会のビデオ・テープ・写真などを見ていると、如実にそれが分かる。

平成四年度も海外子女文芸コンクールで、グアテマラ日本人学校が「学校賞」を受賞したという月刊『海外子女教育』の発表。——その記事を読みながら、私は、改めて、「教育は、教師の態度の問題だ」と、しみじみ思う。

## コスタリカの選挙

元サンホセ日本人学校

山田 羊平

私が、一九八八年に赴任した時、あちこちの屋根に黒ずんだ小旗がはためいているのを見かけた。

大統領選の一年前になると、赤と青の横じまの小旗や緑と白のストライプの小旗に入れ替わり、日が経つにつれ、それらの旗が増えはじめた。

それは、コスタリカの政権を争っている二つの大きな政党を表す旗で、旗を掲げることによって、自分がどの政党を支持しているか意思表示をしているのである。

大統領選一年前に、各政党は大統領の立候補者を支持者全員による投票によって決めるのでテレビや新聞は勿論、街頭でも選挙活動がはじまる。しかも、二つの政党は時期をずらして投票をするので、事実上一年前から、選挙活動が始まっていると言ってもいい。

投票日の半年前になると、支持者達は政党の旗を振り、自動車の警笛を鳴らしながら走り回る。それに、呼応して歩行者は手を振り、声援を送る者もいる。すれ違う車は警

笛で答えるので大道りは大変賑やかである。交差点では信号待ちをしている車に、候補者の名前の入ったＴシャツを着た子供たちが、政党の旗やステッカーを配って歩いている。

投票日が近づいて来ると、ますます、エスカレートし、パン・アメリカンハイウエーが通っている中心街の大通りは、それぞれの支持者がプラカードを上下に動かして、道路いっぱい喚声をあげながら行進している。車の通行は一時ストップさせられるが、交通整理をする警察官がいなくても、誰も文句を言うものはいない。

投票日前後の三日間は、酔っ払いによる混乱を防ぐためかアルコール飲料はいっさい販売が禁止され、スーパーの売場のアルコール飲料のコーナーには白い布が掛けられている。

私の住んでいた近くのコレヒオ（高校）が投票場になっていたのを見学させてもらった。投票場所は教室が使われていた。それぞれの政党から選出された大統領・国会議員・市区長の名前が載っている三枚の投票用紙を見て、党の欄に拇印を押す。

校門の周囲には、政党支持を呼び掛けているグループ、政党のマークや候補者の名前がついたグッズを売る土産物

屋、飲食物を売る露店がならび、お祭のような賑やかさである。

道は投票を済ませた人の足を確保するため自家用車を止めて、相乗りを頼む人等で混雑している。政党によっては、バスをチャーターして遠方の人を運んでいる。

もう国中がお祭りといった感じである。

子供は子供で、選挙が近づくと、小学校二年生の女の子でさえも「私は、ポニータのセニョーラ（かわいい奥さん）を持つC候補がいい」等と、候補者の支持について姉妹同志で話し合ったり、学校で友達と話し合ったりするようになる。それは大統領の選挙の投票日に子どもによる模擬投票が行われること等も、子ども達に深い関心を持たせていると思う。このことは、「子どもの時から政治というものには、みんなのものである。」という意識を育てるのに大変役立つっていると、コスタリカの人々は考えている。

日本人学校の教師がコスタリカの小学生に対して、自分の国の意識調査をした時、「コスタリカは民主主義で平和を愛する国」と自分の国を誇りに思っている中学年の児童が何人もいたことを知り、政治に対する意識が日本の小学生より、高いのに驚いた。



投票場の前で氣勢をあげる支持者たち

一九九〇年二月の選挙の結果は、現政権とは反対の政党の勝利となり五月新政権が発足した。

一般に、コスタリカ人は、同じ政党が長く政権につくと、政治腐敗が起こりやすくなると考えて嫌う傾向がある。

四年に一回、総選挙が行われ大統領・国会議員・市長・区長が選出される。

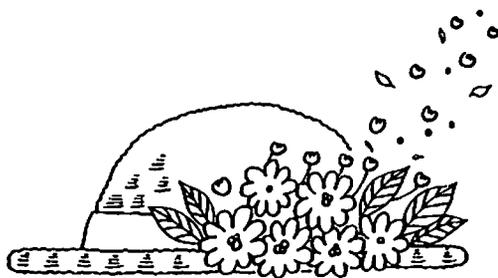
選挙の特徴の一つに・大統領の再選禁止がある。そのため、一九八七年ノーベル平和賞を受賞されたアリアス大統領さえも一九九〇年の総選挙には出馬できない。

国会議員の場合は、一期休んで再出馬できるが継続再選は禁止されている。

そのほか、国が各政党に選挙費用の一部を負担する制度がある。

このような制度は、一朝一夕にできたのでは無く、一八三八年の独立らしい紆余曲折を経ながら、国民が築きあげた中南米では数少ない民主主義国である。

一九九三・一・二二



# 子供のための世界の国々

1. オランウータンと豆の木.....尾崎 達
2. 南米「ベネズエラ」の料理・食べ物について.....三村 秀樹
3. フィリピンの小学生.....森 英志

## 『オランウータンと豆の木』

元コタキナバル日本人学校

岡山市立庄内小学校 尾崎 達

『ジャックは大切な牛と交換して、最後に持ち帰ったのはたった数つぶの豆だけでした。家の人にひどく叱られて、その豆は窓の外に捨てられてしまいました。ところが、翌朝ジャックが目を覚ますと、豆の木が天にも昇る勢いで大きく成長していました。ジャックはすぐその豆の木に飛び移ると上へ上へとよじ登っていきました。』

みなさんがよく知っている『ジャックと豆の木』の話ですが、本当に一日でこんなに木が伸びたらいいなと思いませんか？

もし皆さんが、今、柿の種をまいたとしても

芽が出て大きく成長するまでは数年かかりますものね。「ももくり三年かき八年」といわれるくらいですから、一日どころか、一年たっても十分成長するはずはありません。

ところが、この写真を見て下さい。この写真はパイヤという木ですが、種をまいてから八か月で立派な実をつけたところです。木の高さも二階の窓辺りまであります。一日で成長したジャックの豆の木にはかないませんが、一年未満でこのように成長したということはちよつと



パイヤの木

信じられないことではありませんか？。実は、この写真は日本で撮影したものではありません。

カリマンタン島（ボルネオ島）という赤道上にある島で撮影したもののなのです。この島は、北半分にマレーシア、南半分にインドネシアという国があります。この二つの国の間にはうっそうとしたジャングルが広がり人々は簡単に入り込むことは出来ません。

さて、先ほどのしゃしんのパイヤの木の話にもどりましょう。種が発芽するためには、空気が水と適当な温度があればよいと理科で勉強しましたね。そしてもっと成長するには、さらに、日光と肥料が必要であることも学習しました。

パイヤの種をまいたところは、一年中日本の夏のような気候で、スクールという激しい雨もあります（熱帯雨林気候）。日本では四季と

いう季節の移り変わりがありますが、ここではひまわりがぐんぐん育つ気候が一年中毎日続くわけです。

ですから、パイヤにかぎらず四年生で学習した「オジギソウ」も一年中成長を続け開花と結実をいつも見ることが出来ます。日本ではめずらしいオジギソウもここではとげのある嫌われる雑草の仲間入りになります。

家の芝も同様です。一か月に一回は必ず芝刈りをしなくてはなりません。こういうわけですから植物にとっては天国なのかもしれません。大きな木が天を突くようにそびえています。

『ジャックと豆の木』の作者は、案外このような土地にいて話を作ったのかもしれないね。

天までとどいた豆の木の太さはどのくらいあったのでしょうか？。根元の部分は相当太かったのでしょうかね。そうでもしなければあんなに大きくなった幹を支えることは出来ません

ものね。それでは下段の写真を見て下さい。

ずいぶん大きな木でしょう？。もちろん何年  
もかかって成長した木なのですが、いったい何  
年かかって成長したのでしょうか。

『そんなの簡単だよ。年輪の数を数えればすぐ  
分かるよ。』

といわれそうですね。

確かに、木の切り株を見ると木の中心から  
順々に木の外側の形と同じような筋がいくえに  
もついているのが見えます。これが年輪とい  
うもので、夏の暑いときに成長した部分と冬の寒  
いときに成長が止まったことによりこのような  
筋が見えるということは皆さんがよくしって  
るところです。

では、もう一度写真を見て下さい。ちょっと  
分かりにくいと思いますが年輪が見えますか？

一年中夏のところでは年輪ができないのです。

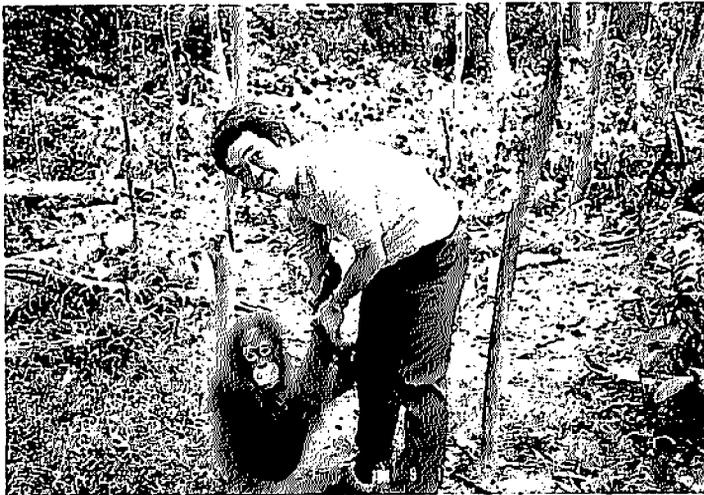


南洋の木材

この木からは年輪によって木の年令を知ることが出来ないのです。

この写真の木は、今、日本に輸出されようとしています。ここは、植物の天国ですから、このような大きな木がたくさんあります。ですから、毎日のようにジャングルからたくさんの木を切りだしています。しかし、いくら植物の成長が速いといっても限度があります。木が成長する速さよりも木をきりたおす速さのほうが早いです。だんだんジャングルの木がなくなってきました。今世界で大きな問題として取り上げている環境破壊の問題もここにはあるようです。そこで、マレーシア政府は、南洋材の輸出を制限したり、木を切りだす地域を決めたり、植林に力を入れたりしています。

この写真は、森に住むオランウータンを撮影したものです。実はこの森も人間の手で保存されている森なのです。



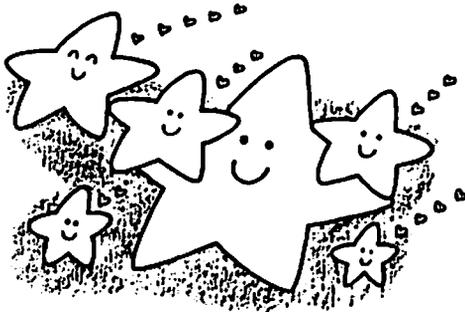
自然に成長していた森の中に住んでいたオランウータンも今ではだんだん住む場所がなくなり、人間が住む場所を確保し食料を与えなくてはならなくなってしまう。しかも、この住みかですえ最近は何りの環境に影響されて年々縮小されているということです。「オランウータン」とはマレー語でOrang(オラン)＝人間・人、utan(ウタン)＝森。という言葉から「森に住む人」という意味になっています。

森に住めなくなったオランウータンはいったいなんと呼んだらいいのでしょうか。この動物のかわいい目を見ていると住む場所を奪った人間のわがままがとてもしけないような気がしてきませんか？

ジャックは、豆の木に登って天国まで行きました。オランウータンは、木にも登れずに自身自身天国に行くともかぎりません。

怖い巨人はいつたいたれなんでしょう。

そして、幸せの金のにわとりをつかむにはどうしたらいいのでしょうか。



## 南米「ベネズエラ」の料理、食べ物について

元カラカス日本人学校

高梁市立巨瀬小学校 三 村 秀 樹

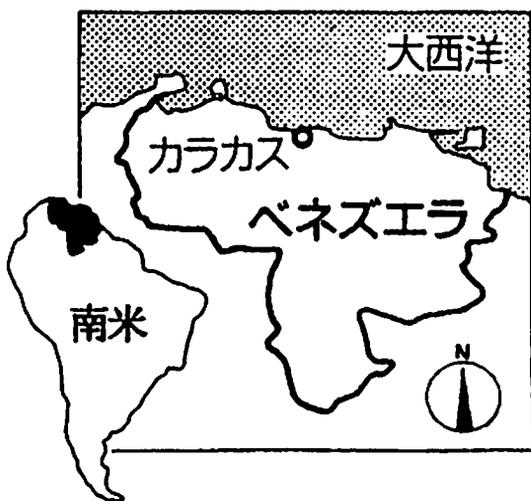
みなさん、ベネズエラという国を知っていますか。

南アメリカ大陸の北のはしにあり、日本の三倍ほどの広さです。首都はカラカスで、石油がたくさん採れるので有名な国です。

南アメリカというと、日本の裏側にあたる遠い国々ですね。その中の一つ、ベネズエラの人々は、どんな料理を食べているのでしょうか。また、どんな食べ物があるのでしょうか。

まず、朝食ですが、朝食はたいがいとらないようです。せいぜいジュースかコーヒーぐらいですませるようです。そして、午前十時ごろサンドイッチやアレツパ（とうもろこしのパン）

### 資料 1



などをちょっと食べます。仕事は十二時ごろから二時半ぐらいまで休憩になるので、今から五十年ぐらい前では、みんな家に帰り昼食を取り、昼寝をしてから、また仕事を始めていたそうです。現在は共働きが増えたり、忙しかったり、通勤距離も長くなったりで、そのあたりのレストランに入ってスパゲッティとかサラダ、肉などを食べます。また道ばたにあるホットドック屋などで簡単にすませる人もいます。もちろん、家から弁当を持ってくる人もいます。子供たちは、学校で給食を……。いいえ、ベネズエラの学校には給食というものがありません。学校は午前と午後に分かれています。ところが多く、そのため、給食は必要ないのです。しかし、パンやお菓子などを売っているお店がある学校が多いようです。

夕食は、たいがい八時から十時ぐらいで、家族一緒に食べますが、そうごちそうではありま

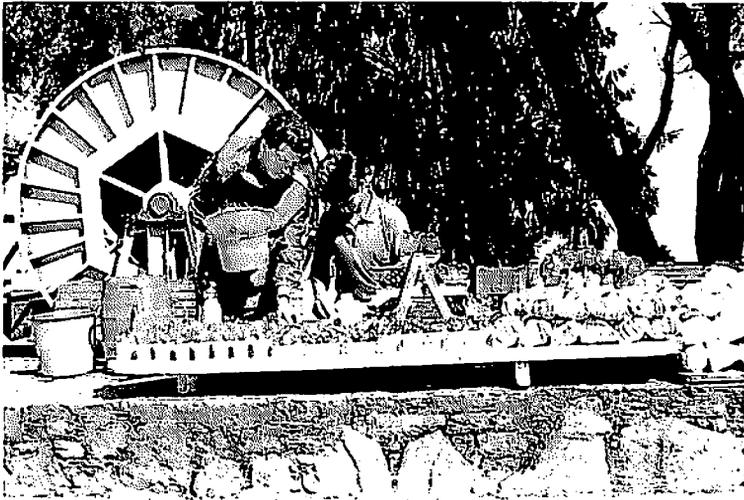


学校内の売店です

せん。

ベネズエラの道ばたでよく目につくのは、果物屋さんです。ベネズエラは赤道に近いため一年中、気温が高く果物がたくさんとれます。すいか、メロン、パイア、マンゴ、パイナップル、バナナなどは、安くておいしくて、一年中食べることができます。すいかは、日本の様に丸くなく、ラグビーボールの様な形をしています。バナナは、三種類あり、一番大きなものは、すぐには食べることはできません。焼いたり、フライにして食べます。中くらいのバナナは日本と同じものです。一番小さいバナナは、「モンキーバナナ」といって、本当にかわいいバナナです。味はいいです。

日本人の主食はお米ですね。ベネズエラの人達もお米は食べますが、白いご飯のままではなく、いためたり、味を付けたりして食べます。パンも食べますが、日本とは違ったものを主食



果物屋



おもしろい形のすいかが見えます

としてベネズエラ人は食べています。

それは、トウモロコシの粉です。それでは、トウモロコシを使った食べ物を紹介したいと思います。

(カチャパ)：トウモロコシを粉にしたものを練って焼いたものです。直径二十cmぐらい、厚さ七mmぐらいのトウモロコシのパンです。トウモロコシの香ばしい味がします。

(アレツパ)：これもカチャパと同じくトウモロコシのパンなのですが、型が小さく分厚くできています。道ばたの屋台で、間にハムやチーズをはさんで売っています。

(エンパナーダ)：ぎょうざみたいに薄くしたトウモロコシの皮に焼き魚や、チーズなどを包んで油で揚げたものです。大きさは、ぎょうざの様に小さい物から、十センチメートルぐらいのものまであります。これも道ばたの屋台で売っていて、昼食に食べる人達も多いようです。

資料 3

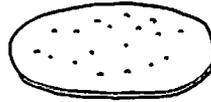
アレップ



ハンバーガーのように間にいろいろなものをはさんで食べる。

資料 2

カチャパ



トウモロコシの粒がところどころにある。ハムやチーズをはさむこともある。

資料 5

アジャカ



やしの葉に  
くるんである

日本のちまきに見た感じは似ている。

資料 4

エンパナーダ



ギョーザのような食べ物。トウモロコシの皮の中に、いろいろな物を入れて油であげて食べる。

す。なかなかおいしいものです。

(アジャカ) … トウモロコシの粉、魚をむしたものの、干しぶどうなどをやしの葉に包んだものです。クリスマスの前にたくさん作っておき、食べる時には、その分だけをむして食べます。

それぞれの家庭の味がある様です。日本で、おもちをつけて食べるのと似ている感じがしました。

ベネズエラの野菜はどうでしょうか。

一応、日本に近い野菜はありましたが、品種改良ができていないのか、固くて食べにくい感じがしました。また種類も少ないようです。ごぼう、大根、白菜などは食べないようで、お店でもほとんど見かけることはありません。

肉は、値段が安く、ベネズエラの人もよく食べます。日本の様にパックで売るのではなく、かたまりで買うこととなります。とり肉も同じ



とり肉をまる焼きしているところ

で、丸ごと買って家で料理するのです。

魚もありますが、新鮮な物は少なく、種類も限られています。肉と同じく、日本のスーパーで売られている様に切り身のパック入りはありません。

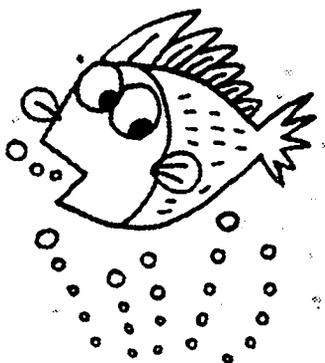
ベネズエラもスペインの植民地だったので、スペインからの料理が多く伝わっています。また、現在では、アメリカ合衆国の影響も大きくファーストフードの店も増えてきています。

ベネズエラの料理、食べ物について説明してきましたが、ベネズエラの子供たちみんなが、これらの料理を満足に食べられるわけではありません。貧富の差の大きい南米の国々では、三度の食事がきちんと食べられない子供たちがいっぱいいるのです。

どんな料理であってもきちんと食べることができる私たちは本当に幸せですね。



海の近くの市場



## フィリピンの小学生

元マニラ日本人学校

岡山市立鹿田小学校 森 英志

「マガンダンウマガ（おはよう）。」

朝六時、朝もやをつけて、路地のあちこちから明るく元気のいい声が聞こえてきます。マニラ市立バラグタス小学校に登校する子供たちです。

シータ（女の子、六年生）とロイ（男の子、三年生）もこの学校に通う姉弟です。二人は、いつも五時すぎに起きています。ずいぶん早いです。それは、マニラ市内の学校は校舎の広さに比べて、子供たちの数が多すぎ、午前部と午後部に分かれているからです。バラグタス校にも約三千五百人の子供がいて、二人とも、始まりが六時半の午前部に通っているの



バラグタス小学校の校章

で早起きなのです。

二人のかばんの中には、筆記用具、ノート、ワークブックが入っています。教科書はといえば、日本のように国から一冊ずつ無償で配ったりしてくれません。二人に一冊ずつ貸してくれるのです。ですから家に持って帰ったりできません。家で宿題になやむことは少ないのですが、学校で先生の話を集中して聞かないといけないので大へんです。

シートとロイは十五分程歩いて学校に着きました。中庭には、もう大勢の友達が集まっています。

六時半、全員集合した中庭でフラッグセレモニーが始まりました。国歌に合わせて、代表の児童が国旗とマニラ市の旗をかかげます。二人は胸に右手を当て、するするとあがる旗を見上げました。

フィリピンでは学校だけではありません。町



フラッグセレモニー

の大きな会社の玄関の上には必ず国旗がかかげてあります。スーパーマーケットや映画館の始まりの時間にも国歌が流れます。フィリピンは今は独立していますが、約四百年間、スペインと米国の植民地でした。また、太平洋戦争の時は数年間日本に支配されていました。国としてのまとまりの強さを表すために、国旗や国歌を大切にしているのですね。

フラッグセレモニーのあと、簡単な体操をしてから教室に入ります。といっても自分の教室はありません。三年生以上は、日本の中学のように教科担任制をとっているのです。一時間目の授業をしてくださる先生の教室に行きます。一時間の授業が終わるたびに、かばんを持って次の教室に移動していくのです。

六年生のシータの時間割を見ましょう。月曜日から金曜日まで毎日同じです。(土・日曜日は休日) 日本のように、朝の会、休けい、そう

### 6年生の時間割り

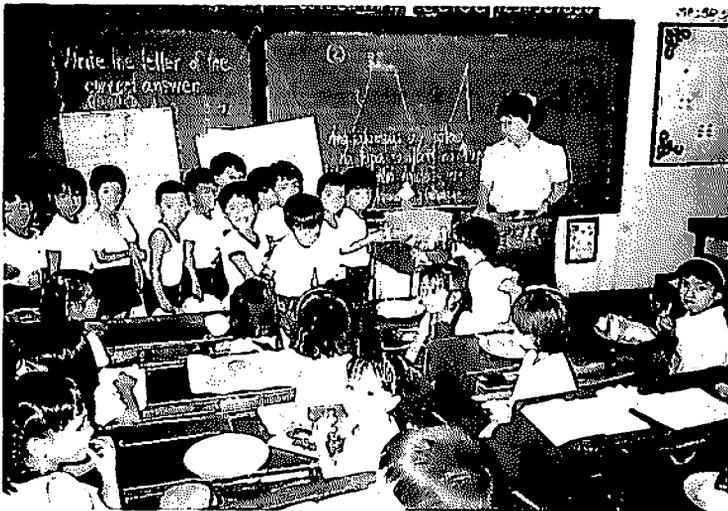
6:30~	フラッグセレモニー
6:45~ 7:25 (40)	理 科
7:25~ 8:05 (40)	算 数
8:05~ 8:45 (40)	社 会
8:45~ 9:45 (60)	技術・家庭
9:45~10:00 (15)	RECESS(リキス)
10:00~10:15 (15)	CBA (人格形成活動)
10:15~10:45 (40)	ビビ-川語 (国語)
10:45~11:15 (30)	MAPE (音楽, 図工, 体育)
11:15~12:15 (60)	英 語

じ、給食などの時間はありません。リセスという時間が十五分間ありますね。これは、おやつを食べる時間なのです。

フィリピンでは、ミリエンダーといって十時と三時に、時間をかけておやつを食べる習慣があり、学校でもそうなのです。おやつは家から持ってきてもいいのですが、きょうは、学校の売店で注文しました。バナナジュースと、マラキットライス（もち米）で作ったプソにしました。あわせて五ペソ（二十五円）でした。リセスの時間は、担任の先生の教室で過ごします。

シータの担任の先生は、家庭科のチェリトー先生なので、家庭科室が自分たちの教室のようなものなのです。

ミリエンダーをとってほっと一息。さあ残りの授業の始まりです。さすがに、シータもロイも、朝早くから続く授業のために、十二時近く



楽しいリセスの時間

にはつかれてきて、いねむりをしたり、となりの友達と話をしたりして先生に注意されてしまいました。

十二時十五分、やっと午前の部の授業が終わりました。ほっとしたロイとシータ。きょうはそうじの当番ではないので、友達と中庭で遊ぶことにしました。シータがしたのは、チャイニーズガーター（ゴムとび）です。ロイはシパ（羽根けり）をして遊びました。どちらもフィリピンの子供たちに人気のある簡単な遊びです。

でも、男の子のロイが一番好きな遊びはバスケットボールです。マニラの町を歩くと、ちよつとした空地や路地には、どこでも簡単な手作りのゴールがすえてあります。道路はすてきなバスケットボール場にいつでも変身するのです。

ロイも大きなお兄さんに交じってゲームを楽し

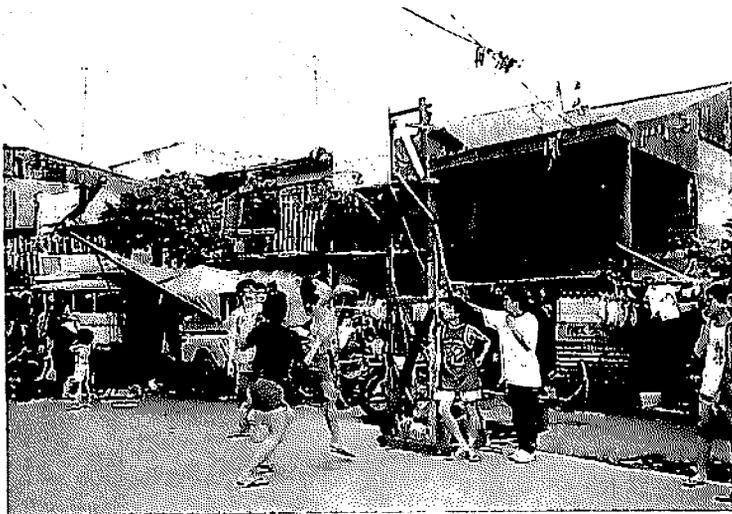


授業のようす

みます。ジャンプ力がありすばしこいロイは、将来プロのバスケットボール選手になりたいと考えています。

ちょうど日本の子供たちが、プロ野球やJリーグの選手を夢見るように、人気がありお金の入るプロバスケットボール選手は、フィリピンの子供たちのあこがれの的なのです。

友達としばらく遊んだシートとロイは、いっしょに家に帰りました。お昼ごはんを食べたあと、シートは、お母さんにかわって幼い弟や妹のめんどうを見ます。ロイは、近くの市場に店を出しているおぼさんの所に行き、野菜売りを手伝い、お金をもうけます。あまり豊かでないフィリピンの家庭では、小学生はもうりっぱな一人前の働き手になるのです。マニラの町を車で通ると、大通りで、ガムやあめやタバコを売ったり、フィリピンの国花・サンパギータのかざりを売ったりする子供たちを大勢見かけま



道路でのバスケットボール

す。

六年生のシータにとって、今一番の楽しみは、目前にせまった卒業式です。式には白いドレスを着ておけしようもして出席します。お母さんは、もうそのドレスを注文してくれました。

バラグダス校には、体育館も運動場もありません。そこで、卒業式は中庭で、朝六時半から始まります。三月末は、一年中夏のフィリピんでも最も暑い時、気温は、昼間で三十七・八度まで上がります。野外の卒業式は六時半開始でちようどいいのです。今年の卒業生は五百二十人、校長先生は一人一人に卒業証書をわたしてください。

卒業式が終わると、長い長い夏休みに入ります。六月半ばの新学期からは、シータはハイスクールの一年生に進学、ロイは小学四年生に進級していくこととなります。いつそうやさし

く、たくましく成長していつてくれることでしょう。



卒 業 式

## 「国際理解教育」再考

就実短期大学 三宅 正勝

### 一 よく分からない国際理解教育

「国際理解教育って何ですか?」。あれだけ耳目にして  
いるはずなのに、最近いろんな人からこう尋ねられるよう  
になった。

私自身は「国際理解」という四文字を冠した会合に、可  
能な限り参加している。年間二十回程度になるであろう  
か。あるときは講師として、別の折にはパネリストとして  
登壇している。

先般も岡山県教育センター主催の「国際理解講座」で愚  
見を披瀝させていただいた。参加しておられた小学校・中  
学校・高等学校の教師は、いずれも「国際理解教育」の実  
践者であり、卓越した見識をお持ちの方々ばかりであっ  
た。そのメンバーが、共通して発言されていた言葉が印  
象に残っている。それらは以下のようなものであった。

ア 国際理解教育というのはいったい何なんでしょう  
か。

イ この教育の理念がよく分からない。

ウ 実践しているが、これでいいのかといつも不安で、  
自信がもてない。

エ 今日的重要課題であるが、教育の場に日常的に取  
り入れる方策が分からない。

オ 研究組織が確立されていないので、横の連絡も取れ  
ず、暗中模索している。

カ 国際化の要諦に、はたして応えられたのか、手応え  
が薄い。

キ 「国際」と名のついた新科目が開設されるのである  
が、何をしたいのかはつきり分かっていない。

これらの意見を拝聴しながら、私はいちいちもつともな  
こうした疑問に、少しでも応えていかなくてはと強く感じ  
た。私たちは一九九二年夏「第一九回全国海外子女教育研  
究大会・全国国際理解教育研究大会」を岡山市で開催。そ  
のサブテーマとして「いつでも、だれでも、どこでもでき  
る国際理解教育」を掲げた。しかし、私はいまこのテーマ  
に関しても「言うは易く、行うは難し」の感を強くしてい  
るところである。

### 二 国際理解、人それぞれの認識

ところで「岡山県国際理解教育研究会」が一九八六年、

会員五〇人に実施したアンケート「国際理解教育とは何か」に対する回答がここにある。この問いに対する各人の答えは様々であるが、いずれも興味深い。以下要約してそのいくつかを列挙してみよう。

ア 外国を見出し、自国を見直す教育。

イ 自国の文化を見失うことなく、他国の文化を理解する教育。

ウ 国際社会の中で、日本と日本人の生き方を考えさせる教育。

エ 世界の人から信頼され、尊敬される日本人を育成する教育。

オ 自国と他国との違いが分かり、その違いを超えて交流・親善できる人間を育成する教育。

カ 自国が数多くの国の中の一つの国であることを理解させ、人類共通の問題を、自分の問題として身につけさせる教育。

キ 広い心、温かい思いやり、しなやかな感性を養いながら、異文化を学び、政治・経済・文化・スポーツなど各分野において、世界の人びとと対等に交流する人間を育成する教育。

ク 人類の福祉と世界平和に貢献できる人間を育成する

教育。

これらの回答は、いきなり正面きって「国際理解教育とは何か」と質問されたときの、とっさの答えとして、至極でもっともなものといえる。しかしこれらはいずれも「国際理解教育」の一面をとらえているにすぎないのではない。そこで、ここではいま一度「国際理解教育の理念」を把握する意味で、ユネスコの動向から探りを入れてみたい。

### 三 国際理解教育の理念

一九四六年に発足したユネスコは、当初から国際理解の教育に、なみなみならぬ意欲をみせていた。そして一九五四年、第八回ユネスコ総会において「国際理解と国際協力のための教育」を採択し、世界的な規模でこれを提唱し推進してきた。日本ではこれを「国際理解教育」と称したのである。

その後、世界情勢は変化、一九七〇年代に入って、各国間の相互依存関係は、全地球的に拡大し、世界の連帯意識の重要性も高まった。一方、発展途上国の自立と公正を求める声は日増しに高まってきた。

そこでユネスコは、新しい時代の要請に対応するため

に、一九七四年第一八回總會において「国際理解、国際協力および国際平和のための教育並びに人権および基本的自由についての教育に関する勧告」を採択したのである。実に長たらしいこの勧告は、いわゆる「国際教育勧告」と略称され、従来の国際理解教育より強力に推進せられるよう求められたのである。

この勧告を受けて、わが国でも一九八二年、日本ユネスコ国内委員会が「国際理解教育の手引き」を出して、その目標と構造を明らかにしている。それらの目標というのは、

- ① 平和な人間の育成
- ② 人権意識の涵養
- ③ 自国の認識と国民的自覚の涵養
- ④ 他国・他民族・他文化の理解の増進
- ⑤ 国際的相互依存関係と世界の共通重要課題の認識に基づく世界連帯意識の形成
- ⑥ 国際協調、国際協力への実践的態度の養成である。

そして、全体構造としては、①②をこの教育の基盤として位置づけ③④⑤を中心舞台とし⑥を帰結とするようになっている。

一方、わが国では一九七四年、中央教育審議会が「教育・学術・文化における国際交流について」と題する答申を発表し、以後の国際理解教育に大きな影響を与えること

になる。

この答申は「国際社会において積極的に活躍し、貢献できる日本人の育成」のために、教育の国際化の必要性を強調し、具体的な方策として①国際交流の促進②外国語教育の見直し③帰国子女教育の促進などを提言した。

この三本柱は以後の国際理解教育の中心思想として守られてきたものである。

その後一九八七年、臨時教育審議会が「新しい国際化」に対応した「国際社会に生きる日本人」の育成をめざした教育を提言したが、これはおおむね「中教審答申」を踏襲したものである。

また、一九八〇年代に入り開発教育、異文化間教育、グローバル教育・環境教育などが学校教育の枠の中だけでなく、社会教育の分野でも盛んになってきた。(一九九二年の「岡山大会」でも、地方自治体や社会教育関係者、NGOのメンバーによる実践報告が数多くなされている)

#### 四 国際理解教育の課題

すでに述べたように、第二次世界大戦の後ユネスコは「国際理解のための教育」を推進してきたが、一九七四年いわゆる「国際教育勧告」を提唱した。そして従来、他国

および他文化の理解を中心とした教育から、環境や開発問題などを含む「国際教育」へと価値の転換をはかった。しかし、わが国においては、このユネスコの精神を教育現場で実践することは極めて困難なことであった。

わが国で取り組んできた国際理解教育の内容を検討してみると、その多くは他文化理解中心主義であったり、国際交流活動が主流であったり、外国語（英語）教育や帰国子女教育の域を出るものではなかった。

このことは、帰国教師を中心にした研究活動や、前述した帰国教師への「国際理解とは何か」というアンケートの回答にも色濃く表われている。これらは、ユネスコの「国際理解勧告」が、その指導原則として強調している平和・人権・開発・環境問題を考える上での前段階ともいうべきものであるから、今後の国際理解教育は、世界的視点を持ち、世界の相互依存関係に眼を向けることが肝要であるといえよう。

さらに具体的な課題について述べるなら、国際化する教育の現場においては、国際科を新設し、国際文化コースや国際教養コースを設置する動向はよしとしても、教育内容や指導方法は確立されておらず肝心の人材にも恵まれていないという問題がある。

都立国際高等学校や私立大阪国際文化中・高等学校が誕生するなど教育の国際化対策は盛んになってはいるが、進路保障に関しては未知数であり、今後の成果が期待されるところである。

一方、小・中・高校における国際理解教育は、研究組織が設けられていないうえに、理論・実践ともに資料は不足しており、発達段階に応じた適切なマニュアルも欠如している。そこで、教師の意識、情熱および技量不足などにより、国際理解教育の深化と拡充は掛け声のわりには進展していない。つまり国際理解教育は、海外日本人学校からの帰国教師や海外帰国生の受入校を中心とした、個人レベルの自主的な教育活動に任されてきたのである。

しかし、最近になって地方自治体や教育委員会が、教育の重点目標の一つに国際理解教育を掲げ、研究校を指定したり、国際理解講座をシリーズで開催するなど、積極的な動きがみられるようになったことは喜ばしいことである。

そこで今後は、いつときも早く小学校、中学校、高等学校の教育研究会組織の一部門に「国際理解教育部会」を新設し、「いつでも、だれでも、どこでもできる国際理解教育」を推進していかなくてはならない。そして、ユネスコがめざしている「世界の平和と人類の福祉の実現」とい

う、この教育の最終目標の実現に取り組まなくてはならない。

## 五 校門を出た国際理解教育

終わりに、校門を出た国際理解教育を国際理解教育が、ユネスコの「国際教育勸告」の理念に沿って展開されるにあたって留意すべき事柄について述べてみよう。

### ①心の国際化を果たすこと

日本人は、従来欧米中心志向であり、欧米以外の各国文化に対しては、かたくななまでに閉鎖的であった。加えて偏見に満ちていた。この閉鎖性や偏見の克服し、異った文化をもつすべての人びととの共存共生の思想は、国際理解教育の使命である。それにはまず、身近な人びとへの思いやりから出発し、徐々に広がりつつ国際レベルにまで高められていかななくてはならない。

### ②コミュニケーション能力を高めること

国際化を論じるなかでコミュニケーション能力に触れる際は、いつも外国語の会話能力、それも英語力に偏重する傾向があった。今後外国語を語るときは、欧米語に偏ることなく少くともアジア地域の言語と文化に眼を向けなくてはならない。また外国語能力ばかりでなく、日本語による

表現能力も高めて、国際舞台でしっかりとコミュニケーションできる人間を育てなくてはならない。

### ③ 行動する人間を育てること

最近「理論はもうたくさんだ、実践が大事ではないか」という言葉をよく耳にする。「いや理論がいまいだからダメなんだ。まず学習しよう」という意見も根強い。こうしたことは国際理解教育に限らず、どの分野においても問題にされることである。

他国の生活や文化を理解し、苦しみを思いやることのできたなら、その苦しみの解決のために行動を起こすことが肝要になってくるはずである。現代は国境を超えて行動できるいわば「地球市民」誕生の時代であると思う。私たちは「地球市民」として生きることの可能な人間を育てなくてはならない。

### ④ 校門を出た国際理解教育

国際理解教育は、まず学校の中、教室の内部で行われるべきである。それが基本となり外に眼が開かれていく、学校は組織的、系統的であり、計画性に富み資料にも恵まれている。しかし、国際理解教育の目標として、国境を超えて行動するほどの人間の育成にまで眼を向けるならば、単に学校内、教室内にとどまるものであってはならない。

国際理解教育は、地方自治体や地域社会と協力し、さまざまなプログラムを計画し討論し、参加運営しなければならない。そして、ユネスコ、ユニセフ活動をはじめ、各種のNGO（民間援助協力団体）と連携するなど、いわば「校門を出た国際理解教育」の推進をはかりたいものである。

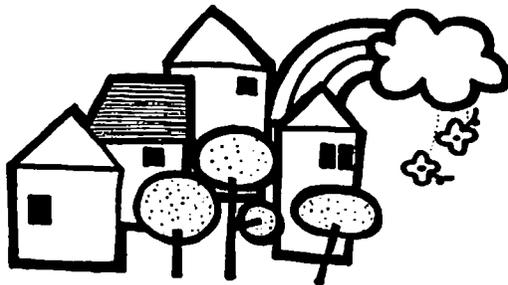
#### 参考文献

『国際教育事典』 アルク 一九九一年

『国際理解教育』第4号 岡山県国際理解教育研究会  
一九八六年

『国際理解教育』 日本国際理解教育学会 一九九三年

『国際理解教育』 大津和子著 国土社 一九九二年



## 中国の歴史をどう見るか

日本と中国の歴史教科書を比較して(第三部)

元北京日本人学校

黒田 忠 男

(はじめに)

第二部(国際理解第八号)に続いて、今回は明代から清代のアヘン戦争前までの中国歴史について、日本と中国の教科書を比較研究することにする。使用する教科書は

「中国歴史」(人民歴史出版社)中学用教科書

「詳説世界史」(山川出版社)高校用教科書

内容的に同レベルと考えている。

(一) 明代初期の農業発展

元末に紅巾の乱(白蓮教徒の乱)の首領となった朱元璋は、元を北方に駆逐して、一三六八年に現在の南京で明の帝位につき、太祖洪武帝となった。

「世界史(山川出版)」によれば、洪武帝は民族意識を高め、支配体制を確立、国土の再建につとめ、魚鱗図冊(土地台帳)や賦役黄冊(租税台帳)を作つて里甲という行政区画を編成したと述べている。

「中国歴史」では洪武帝の初期の政策をきわめて高く評価している。特に農業保護政策が農民の暮しを豊かにしたことを好意的に詳しく述べている。

・土地のない農民に対して開墾した荒地を農民の所有とし、さらに各地の屯田兵を重点的に開墾に当たらせて、軍隊の糧食を自給できるようにし、農民の負担を軽減した。  
・治水事業や水利改修、綿花栽培の奨励、富裕地主の隠し田の調査、などにより農民の租税負担を軽減した。

・手工業者の服役制度を改善することにより、工匠たちの自由な時間を確保したので手工業生産が向上発展した。  
「天下が初めて安定した。人々の財力は困窮している。小鳥の羽を抜いてはいけない。植えたばかりの樹を揺さぶってはならない。」

と官吏たちを戒めた太祖洪武帝は、それが明朝の国家安定のためにとつた施策であつたにせよ、その農民保護の政策は「中国歴史」では、高い評価を受けている。

(二) 明の政治と経済

政治機構改革の上で、太祖洪武帝は中央統制を強化するため、今まであつた行中書省の機構を廃止し、丞相(宰相)を廃して「六部(吏戸礼兵刑工)」を設け、皇帝直属とした。このほかにも「世界史」によれば、新たに明令、

明律をつくり、民衆教化のための「六諭（六か条の教訓）」を定めて君主独裁の専制支配体制を確立した。「中国歴史」では「衛」や「序」という特務機関を設置して専制政治が強化されたとしている。

科挙は「世界史」によれば、唐代に始まった官吏登用試験の制度で、朱子学を官学とした明代に完成されたものである。

「中国歴史」によれば、科挙は四書五経の中からのみ出題され、回答は朱喜の注釈通りであることを要求され、文体は「八股文」形式でなければならず、応募者たちは形式的な八股文を書くことだけに没頭し、実のある学問を追求せず、役人になっても皇帝の従順な奴僕となっていたと、その欠陥を厳しく批判している。

三代目の永楽帝は北京へ都を移して政治体制を固め、対外政策でも積極的であった。五回のモンゴル親征、ベトナムの支配、鄭和による南海遠征などである。（世界史）

「中国歴史」では特に、北京の建設と長城の修築について説明し、北京が壯麗で古代の都市建築の傑作であると自負している。

また、鄭和による七度の大航海は、バスコ・ダ・ガマやコロンブスよりも半世紀も早く、船団の規模の大きさ、交

易による経済文化の交流なども大きく取り上げて誇っている。さらに華僑たちが積極的に東南アジアの各地で経済文化の発展に貢献したことを述べている。

日本との勘合貿易については、「世界史」では倭寇防止に役立ったことを簡単に触れているが、「中国歴史」には見られない。

倭寇の働きについて、「世界史」によれば前期の倭寇は室町幕府の取締りによって衰え、その後十六世紀に活発になった後期の倭寇は、明の貿易統制に不満をもつ中国人商人が多かったと記している。

「中国歴史」でも中国の商人や地主が倭寇と結託して強奪を働いたことは認めているが、倭寇の主体は日本人であり、江蘇省、浙江省の沿岸で殺人、放火、略奪を極めた倭寇に対して、中国側は官民一体になって戦ったと述べている。そのときの指揮官の戚繼光は、規律正しい軍隊「戚家軍」を組織して倭寇を肅清駆逐した。「中国歴史」は戚繼光を民族の英雄と賞賛している。

倭寇の实体が日本人か中国人か、若干の見解の相違が見られる。

日本の権力者豊臣秀吉の朝鮮侵略に対しては、李如松が率いる明軍が朝鮮政府の救援に応じて出兵し撃退し（一五

九三年)、二度目(一五九七年)は秀吉の病死による混乱に乗じて追撃し、海上で激戦を展開し、明の老将鄧子竜と朝鮮の名将李舜臣の指揮のもとに、逃げる日本侵略軍をほとんど殲滅したと述べている。

「世界史」でも、豊臣秀吉の侵犯による国土の荒廃の中で、明は救援軍や民衆の義勇軍を派遣し、難局を切り抜けたことを記している。朝鮮の名将李舜臣の名は、いずれの教科書も挙げている。

「世界史」によれば、明の中国統一と繁栄の背景には、宋代以後江南の開発がすすみ、米作地帯として栄えてきたことがある。加えて大土地所有と佃戸制(小作制度)がいつそうすすんできた。さらに品種が改良され、単位面積当たりの収量が増え、二毛作もすすんできていた。米以外に、綿花や養蚕が普及し、家内制織物業が盛んになっていったのは、国内需要が増えたためと、ポルトガルやスペインの商人が来航して大量に買付けたことにもよる。商業手工業の発達により、同業者が集まり共栄のための機関「会館」「公所」が設立され、銀が貨幣として流通するようになった。日本やメキシコの銀が大量に持ち込まれたことが銀の流通に拍車をかけ、貨幣経済の急速な発展により、銀で租税をまとめて納める「一条鞭法」が普及した。

「中国歴史」でも、この時代に地主階級が狂ったように土地を略奪し土地の集中が驚くほどであったと述べている。また、綿花・養蚕のほかに、甘藷や煙草の栽培も普及してきたとしている。手工業では製鉄、窯業、織物が発達し、これら商品の製造と売買は都市の発達を促した。商品経済の発展と貿易のために銀が貨幣として流通するようになり、地税、徭役、雑税をまとめて銀に換算する「一条鞭法」は大地主の反対により取りやめになったが、租税は一律に銀で納入するようになった。

「世界史」によれば、明代には都市経済は発展したが、一般農民の経済状態は改善されず、佃租(小作料)をめぐる、小作人たちの地主に対する抗租運動が激化した。

「中国歴史」でも、明の政府が職費のために、収穫量にかかわらず一律に土地に課税し、地主はこれを農民に転嫁したために、農民の疲弊が著しく、反乱決起の原因になったとしている。

### (三) 明の滅亡

「世界史」によれば、明政権は朝鮮への援軍の派遣や国内の反乱の鎮圧、東西の女真族との戦いなどの軍事費の増加による財政難のため、また官僚の勢力争いや宦官の横暴による政治の乱れにより、各地で暴動や反乱が起こって、

反乱軍の指導者の李自成に北京を占領されて滅んだとして  
いる。

「中国歴史」でも、明朝の政治が皇帝の手から離れ、宦官の横暴を許してしまったことが破局の原因であったとしている。官僚たちの汚職と民衆に対する横暴残虐、地主たちの農民からの土地の収奪、苛酷な徴税などが民衆の反乱を引き起こし、陝西省で立ち上がった李自成の指導する農民革命決起軍に攻められて、北京が陥落し、崇禎皇帝の自殺により滅亡したいきさつを詳述している。

李自成の軍は各地を転戦して河南省に入り、洛陽以西の関中、さらに西部の地域を支配下に置いて、大順政権を樹立、明政権を倒した。「中国歴史」では、農民出身の李自成を農民改革の英雄として、大きく取り上げ賛辞を贈っている。李自成の軍隊は規律が厳格で、農民を保護し、戦勝した土地では農民に土地を与え、租税を免じたので、大きな支持を得て、隊列に参加するものが増え、大きな力となって明政権を倒したと述べている。李自成の決起軍が「均田免糧」のスローガンを掲げ、土地の分配と租税の減免を掲げて戦ったことは、封建的土地所有制度を改変し、歴史を推進しようとするものであったとして高く評価している。やがて李自成の軍は、東北から興ってきた清に追わ

れていった。

「世界史」では、李自成はただ反乱軍の指導者として北京を占領し明朝を滅ぼしたとしているだけである。時代的な背景の中で明が滅亡していったことを知るためには、若干の補足説明が必要であろう。

「中国歴史」における明代の特徴的な記述は、明代の中期以後に資本主義の萌芽を認識していることである。

華南での水稲の二期作栽培の増加などにより生産額が増えたと同時に、全国的に養蚕や綿花栽培が普及し、製鉄や窯業も盛んになり、手工業が発達し商品が流通する基礎が生まれてきた。貨幣としての銀貨も流通してきた。

このような状況の中で、蘇州では織機を並べて職工たちに仕事をさせるようになった。雇用労働者は労働力を売ることによって生計をたてていた。これはすなわち資本主義の生産関係であった。また、税を徴収するため明の政府が派遣した宦官を「税監」といったが、蘇州をはじめ各地で反税監の闘いが展開され、これを撤回させたと記している。

日本でも江戸時代にはこのような生産関係が見られたが、これが産業革命以後は機械化され、資本主義生産へと移行していった。

#### (四) 清初期の政治

「世界史」によれば、女真族の太祖ヌルハチが後金を建国し（一六一六年）、二代ホンタイジ（太宗）が一六三六年に国号を清とした。三代順治帝は華北に入り中国全土に支配を広げた。康熙帝「三藩の乱」を平定し、台湾を領有して、中国全土を統一した。

「中国歴史」の記述は康熙帝から始まっている。北京を占領した清は、李自成の農民軍を攻め滅ぼした。戦いは二十年続き、土地は荒れ果て生産は破壊されていた。

清朝の統治者康熙帝は、荒地地の開墾を奨励し、開墾した土地は「更名田」と呼んで、その人の所有にすると宣言した。また、康熙五十年（一七一一年）の人口をもって人頭税徴収のための固定人数とし、その後生まれた人には課税しないと規定した。さらに人頭税を廃して土地税に割り当てたので、土地を持たない農民は人頭税を払わなくてもよくなり、封建国家の人身拘束は緩み、農業生産は回復し発展していった。職人の登録もやめ、服役制度がなくなり逃亡者もいなくなつて、手工業生産が発展しやすくなつた。このようにして康熙帝は「中国歴史」の中では高い評価を受けている。

「世界史」でも、清が十八世紀初めの調査丁数をもつて

丁税の定額とし、以後の増加には課税を廃止したことから、税制は簡便になつたと述べている。これが農民に有利になつたことには触れていないが、内政外交において清朝の基礎を固めたとしている。

#### (五) 領土問題

十六世紀の後期から黒竜江流域に進出して、侵略をくり広げるロシアとの間で紛争が続き、一六八五年に康熙帝は自ら出かけて戦いを指揮して撃退した。「中国歴史」では康熙帝がロシア侵略軍を撃退し、一六八九年にロシアとの間に平等な「ネルチンクス条約」を締結して国境を定め、清の領土権を守つたことを高く評価している。

また台湾問題では、清に抵抗していた鄭成功が、一六六一年に、台湾を占拠していたオランダ植民主義者に戦いを挑んでこれを投降させた。彼は台湾に行政機構をつくり、大陸からの移民に開墾させ、未開の高山族にすんだ農業を指導し、学校を開設して教育を進めた。一六八三年になつて、清は台湾に攻め入り、台湾府を設置して統治するようになった。

新疆北部のジュンガル部の貴族ガルダンは、ロシア帝国の支援を受けて漠北蒙古へ進出してきたが、これも康熙帝が自ら率いる清軍に何度も撃退された。一七五五年には乾

隆帝も、ロシアの支持のもとに反乱を起こしたジュンガル部を攻めて平定した。

その後も、一七五八年に新疆地区ではウイグル族の貴族が反乱を起こし鎮圧され清は新たに新疆地区を統一した一八二〇年には、イギリスと結んで起こしたウイグル貴族の反乱を平定した。

チベットに対しては、順治帝はラマ教の「ダライラマ」と接見して、清朝の承認を受けることになっていった。その後、しだいに清が管轄するようになった。

これらはいずれも、領土問題では後に引かない中国の立場を鮮明にした記述である。

「世界史」においても、ロシアとの「ネルチンスク条約」締結や、台湾領有、ジュンガル親征について、同様な記述をしている。雍正帝は一七二七年に、ロシアと「キヤフタ条約」を結んでモンゴル北部の国境を定めた。このようにして、清が広大な国土をもち、周辺に多くの属国をもつ大勢力となったとしている。

「中国歴史」では、中国が多民族国家であることを強調し、清の時代には、広大な国土に分散する多様な民族を「理藩院」を設置して管轄していたと述べている。

#### (六) 清朝政治の腐敗

「世界史」には、乾隆帝の末期には、官僚の腐敗などによって政治がくずれはじめ、重税や私腹をこやす官僚の圧迫によって民衆は苦しみ、各地で反乱を起こしたが、その最大のが「白蓮教徒の乱」であったと記している。

「中国歴史」ではこれを具体的に説明している。統治機構が肥大化し、官界に汚職賄賂が流行していた。ある軍機大臣は二十年間の在職中に銀十億両を手に入れたが、これは清の政府の二十年分の財政収入に相当するものであった。貴族や官僚たちは土地を争って取り合い、小作人に高額の地租を課した。ある大地主は百万畝を持っていたという。

貴州の苗族は土地を求めて反乱を起こし、満州族や漢族の地主に対して「よそ者を追い出し、土地を取り戻そう」というスローガンを掲げて戦った。

土地を失った流民たちは各地の森の奥で荒地を開墾したり鉱石の採掘をしていたが、一七九六年に白蓮教首領で女英雄の王聰児の指揮のもとに「白蓮教徒の乱」を起こし、九年にわたって反抗した。

しかし、清朝はさらに約百年続いた。清朝の基礎がしっかりしていたためであろうか。

#### (七) 明清の文化

「世界史」では、明代に朱子学が官学となり、「永楽大

典」「四書大全」「五經大全」などの大編纂が行われたことをあげているが、「中国歴史」では無視されている。陽明学についても同様である。儒学は今の中国では価値を認められていないようである。「世界史」に取り上げられている清代に編纂された「康熙字典」「古今圖書集成」「四庫全書」のいずれも「中国歴史」の中には紹介されていない。

「中国歴史」によれば、清代に学者たちの百回以上の筆禍事件が検挙され、例えば、「清風不識字、何故乱翻書」(すがすがしい風は文字を知らないのに、なぜ本を書を開くのを乱すのか。)という詩を、清朝を故意に風刺するものだとして、作者を処刑した。こうして学者たちは古書の研究に埋没していったという。「世界史」でも、考証学は清朝の思想弾圧のなかで学者たちがとった一つの生き方であったと述べている。

十六・十七世紀には実用を第一とする「実学」が発達し、「世界史」では李時珍の「本草綱目」・徐光啓の「農政全書」・宗応星の「天工開物」などをあげている。

・「中国歴史」では、これらについて特に詳しく解説を加え、高く評価している。

・「本草綱目」は内容が豊富な薬物学の総括であり各国語

に翻訳されて、世界の自然科学の重要文献となった。

・「農政全書」はヨーロッパの科学技術を取り入れた内容が豊富な農業書である。

・「天工開物」は生産技術、科学技術の書として、各国語に翻訳された「中国十七世紀の工芸百科全書」である。

とくに「中国歴史」に取り上げられているのは、思想家の李贄、黄宗義、王夫之である。

・李贄は儒教思想やしきたりに反対し、男女平等を唱え、網常礼教の封建社会の思想を非難したため、捕らえられて死んだ。

・黄宗義は封建専制君主の統治を「天下の大害」であると攻撃し、大衆が制定する法律をもって、君主が制定した法にとつてかわるべきだと主張した。

・王夫之は唯物論の思想家である。物質を離れて精神は存在しない、認識は客観的な事物が引き起こすものであると説いた。彼の哲学思想は中国古代の素朴唯物論を総括したものである。これらの名前は「世界史」には見られない。

文学作品では、「三國志演義」「水滸伝」「西遊記」

「紅樓夢」「聊齋志異」「儒林外史」をいずれも挙げている。「世界史」ではこのほかに「金瓶梅」「牡丹亭還魂

記」「長生殿伝奇」などを列記している。

「中国歴史」では四作品についてつぎのように解説している。

・三國志演義

封建社会の腐敗暗黒と統治階級の殘虐さをえがき、人民の流離の苦悩と農民決起の声を反映している。

人物の描写が、歴史事実とは一致していないが生き生きとしていて魅力的で人々が喜んで聞く。

農民決起を蔑み、忠孝節義を説いて、封建主義の毒素も存在している。

・水滸伝

宗江の決起にもとづいて創作したもの。梁山の英雄たちの人間像がいきいきと描かれ、農民の鬪争精神をたえている。

濃厚な忠君思想が見られ、宗江の降伏に同情する態度を抱いているのはよくない。

・西遊記

孫悟空の大暴れは、人民が封建統治に対して敢然と戦う精神を反映している。

この小説は仏法無辺と因果応報の思想を宣伝するものであり、これは封建制度の殘糟である。

・紅樓夢

作者の曹雪芹は貴族生活をしてきたが、没落し下層階級の平民と接触するようになって、社会の現実を知り、この作品の中で、悲憤を抱いて深刻に封建統治を批判し、封建制度が人間性を壊す本質と、地主階級の暴虐腐敗を暴露している。

高度の思想性と芸術性をもった大きな構想で、複雑な感情の表現、生き生きとした描写で、中国古典文学の中で最も重要な地位を占めている。

いずれも、思想性をもった作品紹介である。

(終わりに)

「中国歴史」を翻訳する過程で、しばしば不明な点が出てくる。古い漢語は辞書を調べても分からない場合がある。留学生の方に教えていただいたりしながら、一歩づつ前に進めていきたい。

今回は明代と清代のアヘン戦争以前までを扱った。本当に取り組まなければならないのはこれからである。

## 「子供のための世界の国々」

### を使った国際理解教育の実践

「昭南島と呼ばれていたシンガポール」

元シカゴ補習校

久米南中学校教諭

太田直広

岡山県国際理解教育研究会が作成した「子どものための世界の国々」を使用した実践が少なく、その活用が課題となっていた。そこで、本校での実践を考えてみたが、それまでに国際理解教育の取り組みはほとんどされていなかった。

生徒指導上の問題を抱え、若干の不安があったが、この資料を使った道徳授業には生徒は強い関心と興味を示し、平和学習・国際理解の学習が深まった。

使用する視点としては、平和学習に重点を置き、それを発展させて、互いの人権について尊重させる気持ちを養うようにさせた。

授業は道徳で行い、二時間扱いの指導とした。

#### 〔問題点と反省〕

・資料が長すぎるので、一時間で使用できる分量にしたほうが使いやすい。

#### 生徒の感想文（一部）

・私がやはり衝撃的だったのは人を電線でしばって銃でうったり、剣でさした………というものだった。私は小さい頃は、日本に原爆を落としたアメリカが憎らしかった。しかし、日本が他の国にやった行為を少しずつ知って、よくわからなくなった。

戦争なんて、わがままな子供のままで成長していない大人がするもんじやないかな、そう思うこともある。戦争は子供のけんかを拡大し、それをもっと残酷にしたものだと思う。

戦争より平和でいるほうが難しいけど、もしかしたらとても簡単なことではないかと思う。

・この文章を読んでとても驚いたことは、シンガポール日本人学校の中学部に在籍していたある女子中学生がシンガポール人の友人の家を訪ねたとき、その友人の祖母から「日本人は大嫌いだ。」と大声で怒鳴り散らされた

ということが書かれていたことです。

今は戦争が終わって月日がたったのに、今でも日本人のことをそういうふうに使っている人がいるということ、日本人は本当にひどいことをしたのだろうと思いません。

これから戦争が起こらないようにするには、みんなが戦争のことについて勉強し、自分の考えをしっかりともち、ことだと思いません。

戦争のように恐ろしいことは絶対に起こしてはいけな  
いと考えることがとても大切なことだと思いました。

罪のない多くの人たちが虐殺されたことが印象に残りました。

世界中の一人一人が自分のことより、まず他人のことを少しでも先に考えてあげれば、戦争などということにはならないと思う。だけど、それができる人は本当に少ないし、もしかしたらいらないかもしれない。

だから、永遠の理想で終わってしまうかも知れないな  
と思う。でも、私はそれを目標にして生きていこうと思  
う。

戦争が起こるのは、国が少しでも自分の国に利益を  
思っているからだと思う。国単位ではなく、もっと広い  
視野をもって地球単位で見なければ戦争なんて起こら  
ないと思う。地球全体が幸せになれるように考えてい  
けば争いも少なくなるだろう。

## 5 展 開

活動内容	指導上の留意点	準備物
<p>1. シンガポールについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンガポールについて知っていることを発表する</li> <li>・ シンガポールについて聞く</li> </ul> <p>2. 資料を読む</p> <p>印象の深いところに線を引かせる</p> <p>3. 感想を書く</p> <p>4. まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンガポールの場所、産業、言語、民族について知り、日本との違いを認識させる。</li> <li>・ 日本人学校が存在を知らせる。</li> <li>・ 太平洋戦争中の日本とシンガポールの関わりを知らせる。</li> <li>・ 湾岸戦争・PKO法案を説明することにより戦争が我々から遠い世界にあるものではなくみじかな問題であることに気づかせる。</li> <li>・ 国際社会にあって日本人が平和を維持していくために何をしなければならぬのか次のことに留意しながら考えさせる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 何故、戦争は起きるのか。</li> <li>② 外国を理解するということは何なのか。</li> <li>③ 平和な社会を維持していくためにどうしたらよいのか考える。</li> <li>④ お互いを認め合うとはどういうことか。</li> </ol> </li> <li>・ 印象に残ったことを文にする。</li> <li>・ 平和維持にたいして大事だと思いうことを考えさせる。</li> <li>・ 数人の生徒に感想を発表させる。</li> </ul>	<p>世界地図</p> <p>新聞</p> <p>湾岸戦争資料</p> <p>読み本</p> <p>メモ用紙</p>

## 第3学年 道徳学習指導案

久米南町立久米南中学校 指導者 太田直宏

### 1 題材名

「昭南島」と呼ばれていたシンガポール

### 2 ねらい

湾岸戦争・PKO法案など現在の国際社会は戦争への大きな危機に直面し、平和維持への強い意志が望まれている。多くの日本人がヨーロッパ・アメリカに目が向くなかで、東南アジアの国々にも生徒の関心を持たせ、シンガポールを正しく理解させるために、太平洋戦争中における日本とシンガポールの関係について知らせる。

戦争による不幸な歴史が繰り返されることを許さない強い意識を育てるとともに、平和を尊ぶ精神を培う。

### 3 指導上の立場

- (1) 戦争による不幸な歴史を正しく認識することが必要である。過去に日本軍がシンガポールで犯した戦争犯罪は単なる過去の歴史ではなく、今でも戦争の傷跡が残っていることを知ったうえで、この国を理解し、平和の尊さを学ばせたい。
- (2) シンガポール日本人学校社会科資料集「シンガポール」の引用などから、生々しい戦争の傷跡を見ることができる。また、著者がシンガポールに住み、旅した経験から記述されているので、生徒に実感を持って学ばせることができる。
- (3) 相手を傷つけるような言葉を平気で使ったり、自分の考えを押しつけ、相手の考えは認めようとしなないことが頻繁に見受けられる現状がある。この教材を学習していくことが、単なる戦争の歴史の学習に終始しないで、生徒がお互いの考えを認め合うことの重要性、人権を尊重する心を学ばせたい。

### 4 準備物

読み本「子どものための世界の国々」

世界地図・東南アジア

感想メモ用紙

## このころ思うこと

アンジェ日本人学校

玉野市立荘内中学校

垣見憲治

### 禁煙運動について

もう旧聞に属するが、新聞にフランス国内の公共の場所での喫煙禁止の記事が載っていた。違反すれば、罰金とか。既に米国では、公共の場所が「全面禁煙」になって久しいドイツでも、もう十年ほど前に、列車は一輛を除いて全車輦禁煙となっていたが……

この様に、先進国では、「禁煙」は時代の潮流になってきている。

日本国内でも、高松の個人タクシー業者が、乗車拒否もできる禁煙車の申請をしたと数日前の新聞が報じていた。東京の山手線などの駅構内は、終日禁煙になっている様だし、全国のJRでは、通勤時間帯はすべて禁煙となっている。日本航空も、国内便では数便を除いて、全席禁煙となりノンスモーカーを喜ばせている。

この様に、国内も先進国の仲間入りをしたように見える

が、衆知の如く、基本的にはまだ「喫煙天国」である。街中のゴミの多くが、タバコの吸い殻であるし、喫茶店、レストラン、待合室などでノンスモークキングの場所や席を定めていることは大変稀である。

未だに、喉の弱い人やタバコ嫌いの人にとっては、誠に住みにくい国なのである。

さて、目を学校教育に移しても事情は変わらない。

県の主催する研究会、研修会の席にも、灰皿は用意されている。県内の学校と名のつく所で、職員室や会議室が、「全面禁煙」となっている所は、どのくらいあるのか。

「禁煙教育」を実施している学校は、大変多いのであるが、不思議なことである。

もう、半年前になるが、ある新聞の投書欄にも、その点を指摘した保護者の意見が載っていた。

今、世界的なトレンドとして、人権が取り上げられているが、他人の前でタバコをすわないことが、何より他人の人権を尊重することになると思うが、如何なものか。

ポランティアについて

近ごろ、「ボランティア」という文字に、よくお目にかかる。大変喜ばしいことである。

しかし、よく見ると、行政主導型であったり、特定の企業が主催するものであったり、個人が自由意志で行なっているものは決して多くはない。

もともと日本では、血縁や近所の助け合いが中心であったので、第三者を助ける西洋型の活動は、十分定着している様には思えない。

キリスト教国では、恵まれない者に愛の手を差し伸べるのは当然のことであるし、イスラム社会では、貧者救済はむしろ義務でさえあり生活の一部である。

ところが、日本では戦前の儒教的道徳が崩れ、宗教も儀礼的なものになったものが多い。また、戦後の復興期と高度成長期を通して形成されたものは、「モノとカネ」を能率的に生み出すための価値観であった。

この様な中では、社会的弱者を助けながら、手を取り合って生きる社会は志向されないし、むしろ、非効率、非生産的と捨象されてきた。

かくして、アメリカ駐在の商社マン夫人が、地域の婦人達のボランティア活動に参加せず、ひんしゆくをかったり、ある県が発展途上国へ派遣する医師を募集したら、一人も応募がなかったとか、海外青年協力隊に参加するため、仕方なく会社をやめたとかの話も数多く生まれてく

る。

実際のところ、条件さえ合えばボランティアに参加したいという若い人は増加しているが、仕事面の制約で加われないことが多い。

最近、一部の企業で「ボランティア休暇制度」を、欧米のように取り入れ始めたところもあるが、バブル崩壊の今となつてはその普及は難しいかもしれない。

従つて、今後は、国による法制化が必要で、更に欧米のように、ボランティアの経歴がプラスに評価されるシステムを広めなくてはならない。

米国の大学入試では、大学での目的を聞くと同時に、ボランティア経験を判断の材料にしているという。

役所も、目先の「実力テスト」廃止を叫ぶだけでなく、今の入試制度全体を見直したり、点だけで人間を判断しないために、ボランティア活動の経験を取り入れる入試制度を考えてはどうだろうか。

#### 多様性について

日本人は、長い間、閉鎖された小さな島国で暮らしてきたせいか、他人やまわりと上手く合わせてやってきた。

しかし、集団の中の毛色の変わった人間は、「変人」とし

て疎外された。この様な中で、外から見ると「金太郎アメ」のような日本人が作られていった。

さて、世界の国々の多くは、多民族で成り立っているものが多い。(日本も決して単一民族の国ではないが。)それらの国では、宗教、民族、人種など多くの問題を抱えながら、やってきた。

時には、殺し合いにまで発展することもあるが、最低、存在を認め合って生活している。

この典型が合衆国であろう。建国当初から、「自由、平等」を標ぼうしている国としては、差別や迫害の苦しみをもちながらも、理想の社会を作ろうとする姿勢を、もちつけてきた。

この「モザイク社会」では、互いがまず存在を認め合うこと、次に違いを知ること、そして、それを理解しようとすることも忘れないのである。

また、もともとちがうのだから、自分の意見をはっきり主張しなければ、認められない。しかし、それぞれが主張し、議論した後で、合意点を見つけたし、ルールを作ってゆく。

さて、日本の学校では、全国的に「校則」の見直しが話題になっているが、当然のことである。

この多様化、国際化社会の中で、ひとり学校のみが一方的に校則をつくり、生徒を「管理」するのは、周囲の理解は得られないだろう。

「生徒を正しく導く」ための校則が、「丸坊主」の件のように人権を侵したのでは何にもならない。

ここで、本来あるべき姿、教師と生徒が協同してルールを作ることにしたらどうだろう。

この過程の中で、考え方の相違が明らかになり、話し合いや議論の中で、本当に大切なものが見えてくるのではないか。また、自分達で作ったものは、自分達で守ろうとするだろう。

また、我々も次のように、発想の転換を図らねばならないと思う。即ち、生徒達を一つのきまりに合わせるのはなく、多様な個性を大切にしながらいかに協調させるかということを。

#### 反省について

反省する猿が、一時テレビの画面を賑わせた。世間でも「反省しています。」とか「反省しなさい。」など大変よく使用されることばである。

しかし、本当に反省したかどうかは、その後の行動を見

れば、わかることである。

「大東亜戦争」を引きおこした反省として、日本は日本国憲法を作った、いや作らされた。これは、成立過程を見れば明らかなことだが、問題はGHQによって「与えられた憲法」ということではない。日本人自から憲法を作れず、あの大日本帝国憲法の手直しでお茶を濁そうとしていたことである。

あの極東軍事裁判は、今考えても不思議な裁判だが、もし、あれがなければ、我々は軍国主義を本当に「反省」することはできなかつたし、今の民主制度もなかつたであろう。

一方、ドイツでは、戦後一貫してナチズムの払しょくが全ての面で行なわれた。しかし、旧東側ではこれが十分でなく、失業率が高いこともあって、ネオ・ナチが伸張し、社会問題になっている。この動きに、いち早く官民あげて反対デモをやったのが、旧西側である。また、ドイツは旧ナチの追究やユダヤ人に対する保障も継続的に行なっている。

民主主義のリーダーといわれる米国も、大戦中にいくつもの誤りをおかした。原爆投下もその一つだが、日系人の資産没収と強制収容もそれである。

しかし、四十年後に、当時のブッシュ大統領によって、陳謝と保障がなされ、日系人の戦後は終わった。

日本も、大戦中ナチスに劣らず、近隣諸国に大変めいわくをかけた。

中国人の大量虐殺やベトナム人の餓死等々は言うに及ばず、「味方」とされた台湾人や朝鮮人にも、大変な被害を与えた。いわゆる慰安婦問題なども、星ほどある中の一つである。

問題なのは、日本人自体がこれをじゅうぶん認識せず、また知ろうともせず、「反省らしい反省をしてこなかつた」とだ。

自分で勝手に「水に流す」のではなく、今、関係した人々におわびと保障をすることが、「経済大国」「先進国」のつとめではないか。それから、国連の安全保障理事国になっても遅くはあるまい。

〈終〉

---

---

## 岡山県下の国際交流団体

---

---

- 岡山県内において、国際交流や国際協力を積極的に取り組んでいる各団体を、紹介させていただきます。国際理解教育の実践に際して援助、協力していただけたと思いますので御活用下さい。

- 財団法人 岡山県国際交流協会
- 日本ユニセフ協会 岡山県支部
- 岡山県海外教育事情研究会
- 岡山YMCA
- 国際ソロプチミスト岡山
- 国際生活体験岡山地区委員会
- コットン古都夢
- 青年海外協力隊岡山支部OB会
- 南北ネットワーク岡山

---

---

## 財団法人 岡山県国際交流協会

---

---

### 設立の趣旨

財団法人岡山県国際交流協会は、世界の人々との相互理解と友好親善を深めるとともに、世界の国々との学術文化、スポーツ、経済等の幅広い交流を積極的に推進することにより、国際性豊かな人づくりと世界に開かれた活力ある地域社会づくりに寄与するとともに、世界の平和と繁栄に貢献することを目的として、県、市町村、国際交流団体、経済界等の協力のもとに設立したものです。

### 協会の概要

1. 名称 財団法人 岡山県国際交流協会
2. 設立年月 平成3年3月
3. 所在地 岡山市厚生町3丁目1番15号 岡山商工会議所ビル2階  
TEL (086) 222-0457 FAX (086) 231-8453
4. 基本財産 基本財産目標額 10億円

### 事業内容

1. 国際交流の推進  
日本語弁論大会・英語スピーチコンテスト、スポーツ交流大会、国際交流イベントの共催及び後援、公民館講座等への講師派遣、姉妹都市提携に対する助言
2. 国際協力  
県費留学生・海外技術研修員受け入れ事業
3. 国際理解  
写真展・パネル展、シンポジウム、国際問題講演会、国際理解講座、留学相談、修学情報提供、留学説明会、帰国子女の相談、外国の新聞・雑誌等の収集提供等

#### 4. 外国人に対するサービス

生活情報の提供、相談窓口の設置、日本語講座、日本文化講座、ホームステイ・ホームビジット・ボランティア通訳の登録、斡旋及び講習会

#### 5. 国際観光

外国人に対する日本の観光情報の提供、外国人観光案内所（アイ・ステーション）の設置運営

#### 6. 経済交流

国際経済セミナー、企業研修生の日本語講座等

#### 7. 広報・出版・調査研究

財団広報誌の発行、英語情報誌の発行、国際交流に関する調査・研究

### 会員制度

財団法人岡山區国際交流協会では、国際交流の輪を一層拡大するため、会員を広く募集しています。

#### 1. 会員の種類及び会費

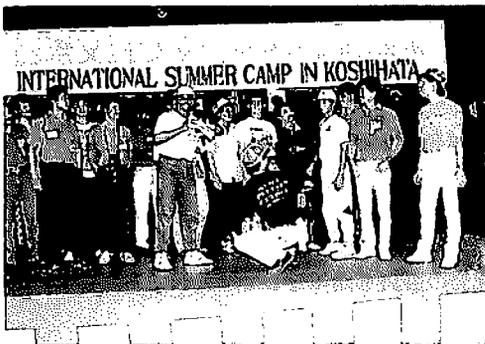
会員の種類	年度会費
個人	年額 1,000円
団体	年額 10,000円
賛助	年額 30,000円

●特別会員：財団の基本財産の造成ために寄付した者

#### 2. 会員の特典

会員には財団が発行する会報誌が無料で送られるほか、財団主催の各種行事に参加できます。また、国際交流のための会議や研修等で財団の施設を優先的に使用できます。

#### 3. 国際理解研究会の会員も団体として加入しております。



---

---

## 日本ユニセフ協会岡山県支部

Okayama UNICEF Association

---

---

- 所在地** 〒700岡山市表町1-4-64-1
- 電話** (086) 227-1889
- 代表者名** 長野洋子(代表) 設立年月 1988年7月
- 年間会費** 2,000円
- 主たる財源** 会費、寄付金
- 目的** 日本ユニセフ協会に所属する地域組織としてその指導の下に開発途上国の子供の実情について地域の関心を高め、その改善のためユニセフに協力することを目的とする。
- 設立の契機** 県内の同志の方々が手を取り合って支部を設立した
- 主たる活動** 高校・大学の学園祭・文化祭の協力、ユニセフ写真展(天満屋)、  
 Bangladesh 洪水緊急援助街頭募金、ハンド・イン・ハンド街頭募金、ユニセフチャリティバザー(岡山外語学院)、県内日本画家によるユニセフ・オークション

### 今後の活動計画

ユニセフ講演会、各学校に対するユニセフパネル巡回掲示、パネル展・カード販売(10月)  
まだ手探りの状態なので勉強中

---

---

## 岡山県海外教育事情研究会

Study Group for Foreign Educational Affairs Okayama

---

---

所在地 〒700岡山市北長瀬本町19-34 岡山大安寺高校内

電話 (086) 552-5225

代表者名 友野澄雄(会長) 設立年月 1975年11月

担当者名 森山寿美子(事務次長)

全国組織名 全国海外教育事情研究会

所在地 〒112東京都文京区大塚3-29-1 日本教育連合会第3研究室

電話 (03) 947-3043

会員数 300名

年間会費 1,000円

主たる財源 会費

目的 海外教育事情の研究、調査とその成果の普及、及び国際交流の推進、により岡山県の教育の改善、向上に寄与する。

設立の契機 海外研修に参加した教職員が一時的な研修に終わることなく継続的に研修しようとして設立した。全国海外教育事情研究会の岡山支部でもある。

主たる活動 年1回の研究会、総会の開催

---

---

岡 山 Y M C A

O k a y a m a Y M C A

---

---

所在地 〒700岡山市中山下1-5-25  
電 話 (086) 223-1509  
代表者名 米良重徳(総主事) 設立年月 1953年3月

全国組織名 日本YMC A同盟

所在地 〒160東京都新宿区西新宿2-3-18

電 話 (03) 203-0173 代表者宮崎幸雄(総主事)

会 員 数 750名

年間会費 3,000円

主たる財源 事業収入、寄付金

目 的 青少年の健全育成

設立の契機 青少年の健全育成をはかるYMC A運動が全国的に展開する中、  
岡山の有志が一同団結した。

主たる活動 語学教育、進学教育、青少年活動、国際協力募金、  
国際理解セミナー、アジア草の根交流会、バザー・オープンハウ  
ス、母親セミナー、やさしい聖書理解講座

刊 行 物 「岡山青年」

#### 今後の活動計画

アジア等諸外国との交流、地域NGO支援、福祉活動、諸事業  
(語学、進学、青少年活動)の広域展開

活動上の問題点 財政的自立が課題となっているので、国際活  
動、地域福祉活動を展開する上で制約がある。人的資源が乏しい。

---

---

国際ソロプチミスト岡山  
Soroptimist International of Okayama

---

---

所在地	〒700岡山市鹿田町1-3-6
電話	(086) 224-6361
代表者名	上恵美子(会長) 設立年月 1971年4月
担当者名	蜂谷多美子
主たる財源	会費とチャリティ収益金
目的	① ビジネス・専門職その他の生活面で高い倫理基準を保つ ② 全人類の人権の獲得、特に女性の地位向上のために努める ③ 全ソロプチミストの間に友愛と一体の精神を啓発する ④ 奉仕と人間理解の精神を高揚する ⑤ 国際理解と世界友好に貢献する
設立の契機	1971年4月に国際ソロプチミスト京都のスポンサーにより、日本で10番目のソロプチミストとして誕生した
主たる活動	①海外からの留学生援助(7名)②精神里親制度への協力(フィリピン里子への育英金3名)③国際交流プラザへの援助協力④アメリカ連盟への寄付(ソロプチミスト財団への寄付、発展途上国への水供給、保健衛生向上等)⑤国連への寄付援助(ペルー女性開発プロジェクト、難民救済)⑥メキシコ地震、アルメニア地震への救済協力、⑦女性の地位向上、ボランティア活動等に励んでいる人々への表彰、⑧青少年の育成⑨環境奉仕としての植樹⑩保健奉仕活動としての老人ホームの慰問、ピアノ寄贈(会員宅の中古品)、旭川荘児童院への奉仕、⑪女子高校生への奨学金援助(3名)⑫ガールスカウト活動の助成

---

---

## 国際生活体験岡山地区委員会

The okayama Committee of the Experiment in International Living

---

---

所在地 〒700岡山市天神町8-54岡山県総合文化センター国際課内

電話 (086) 243-6759

代表者名 高坂睦年(会長) 設立年月1965年7月

目的 外国の家庭に家族の一員として生活することにより語学研修はもとよりその国の文化や人の心を知り、人々の心の平和の砦を築くことをめざす

### 設立の契機

主たる活動 国際生活体験、高校生・一般グループの欧米への派遣海外からの受入れ(シンガポールの学生、1988年)

体験報告

国際生活体験写真展の開催

国際生活体験冊子

---

---

# コ ッ ト ン 古 都 夢

C o t t o n K O T O M

---

---

- 所在地** 〒700岡山市出石町1-8-6
- 電話** (086) 225-4663
- 代表者名** 奥津幸 設立年月 1988年7月
- 主たる財源** 売上金
- 目的** 東南アジアの人たちの手工芸品を店頭に並べて、その品物を通してお店に来る人々に東南アジアへの関心と理解を深めてもらう
- 設立の契機** 合成洗剤追放運動から環境を守る石鹸を積極的に広める目的で開店した
- 主たる活動** 花無心や曹洞宗ボランティア会の人たちが東南アジアから仕入れてきた商品を店頭に並べ販売し、その売上金の一部をACTなどに寄付しアジアの人々への開発協力への一助としている

## 今後の活動計画

東南アジアのみならずアフリカ、南米などの手工芸品や食品を店頭に並べて広く理解と関心を深めてもらうようにしたい

## 活動上の問題点

アフリカや南米などの良心的な商品の仕入れ先を知りたい

## その他

---

---

## 青年海外協力隊岡山県支部OB会

Okayama Ex-volunteers Association of Jpan Overseas Cooperation Volunteers

---

---

- 所在地** 〒708津山市山北353-10
- 電話** (0868) 23-0661
- 代表者名** 村上和栄
- 目的** ①青年海外協力隊帰国隊員の親睦、②青年海外協力隊事業への支援、③OB、OG活動の支援、④国際協力、交流事業に対する協力
- 設立の契機** 1965年に発足した青年海外協力隊のOB、OGの親睦をはかり、その経験を生かすなどの目的で青年海外協力隊OB会が69年に設立され岡山にも組織された
- 主たる活動** 青年海外協力隊留守家族懇談会（年1回）、青年海外協力隊OB、OGの体験発表会（年2回）、青年海外協力隊募集事業に関する協力、岡山県在住留学生との交歓会（87.11.）、国際交流サマーキャンプ（88.7.）中国ブロック研修会（88.8）

---

---

## 南北ネットワーク岡山

North-South Network Okayama

---

---

- 所在地** 〒700岡山市中山下1-5-25 岡山YMCA内
- 電話** (086) 223-1509
- 代表者名** 田中治彦(岡山大学) 設立年月 1987年6月
- 担当者名** 米良重徳(岡山YMCA)
- 目的** 岡山県において活動している国際協力、開発教育関係団体のネットワーク化を図る
- 設立の契機** 田中、米良らが岡山近郊のNGOのメンバーに呼びかけて結成した
- 主たる活動**
- ① メンバー所属のNGOの活動の紹介
  - ② 学習会(テキスト「裸足の革命」サイマル出版)
  - ③ 県外、海外からのゲストを迎えての懇談会等
  - ④ アジア・アフリカNGOフェア、及びシンポジウム「国際協力と私たち」開催(1989.6.25)
  - ⑤ 第7回開発教育全国研究集会の開催への協力

### 今後の活動計画

岡山県内の国際協力、開発教育団体のネットワーク作り